

平成 24 年度 東洋大学レポート



学校法人 東洋大学

目次

はじめに

.....	1
-------	---

ハイライト

東洋大学創立 125 周年記念事業	2
-------------------------	---

事業の概要

東洋大学

教育事業	6
------------	---

研究事業	10
------------	----

社会貢献	12
------------	----

東洋大学附属姫路高等学校	14
--------------------	----

東洋大学附属牛久高等学校	15
--------------------	----

京北高等学校	16
--------------	----

京北中学校	17
-------------	----

京北学園白山高等学校	18
------------------	----

京北幼稚園	19
-------------	----

学校法人東洋大学	20
----------------	----

財務の概要

(1) 平成 24 (2012) 年度決算の概要	22
--------------------------------	----

(2) 経年比較	24
----------------	----

(3) 主な財務比率比較	25
--------------------	----

(4) その他	26
---------------	----

法人の概要

沿革	28
----------	----

役員等の概況	29
--------------	----

キャンパスの概要	29
----------------	----

組織図	30
-----------	----

入学定員・収容定員・学生数	31
---------------------	----

データ集

研究費	32
-----------	----

就職状況	33
------------	----

国際交流	33
------------	----

自 平成 24 年 4 月 1 日
至 平成 25 年 3 月 31 日

学校法人 東洋大学
平成 24 年度 東洋大学レポート

平成 25 年 5 月 31 日発行
発行 学校法人 東洋大学

表紙写真 撮影：三島 勲

(お問い合わせ先)
東洋大学総務部総務課
〒112-8606
東京都文京区白山 5-28-20
TEL : 03-3945-7224
FAX : 03-3945-7654
URL : <http://www.toyo.ac.jp/>
E-MAIL : ml-soumu@toyo.jp



学校法人東洋大学
総長 塩川正十郎

実践的哲学を基盤に
知力と徳力、双方に
秀でた人材を育成



学校法人東洋大学
理事長 福川伸次



東洋大学
学長 竹村牧男

本学は、創立者井上円了博士の思想と建学の精神を継承し、125年の歴史を歩んでまいりました。井上円了博士は、「哲学」の学習を通してものごとの本質を見極めることの大切さを説き、この思想は、「諸学の基礎は哲学にあり」「独立自活」「知徳兼全」という東洋大学の建学の精神に象徴され、現在に至るまで継承されてきました。この建学の精神をもとに、教育理念として「自分の哲学を持つ」「本質に迫って深く考える」「主体的に社会の課題に取り組む」人間を養成し、また、「他者のために自己を磨く」「活動の中で自己を磨く」ことを東洋大学の心としています。これらの東洋大学の心を建学の理念と位置付けて、教職員一同教育研究活動と社会貢献に邁進しております。

平成24年度は東洋大学が創立125周年を迎え、創立者井上円了博士の理念に基づき、建学の精神の共有と継承、多様な教育機会の提供など、様々な記念事業を展開しました。

創立125周年のシンボルとなる125周年記念館（地下1階、地上8階、延べ床面積約19,700㎡）が竣工し、同記念館7階の125記念ホールにおいて東洋大学の創立記念日である平成24年11月23日に記念式典を挙行了しました。この式典においては竹村牧男学長が「未来宣言」を発表し次世代に向かう東洋大学の決意を表明しました。

その具体化として「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を3つの柱として推進することを決意しました。「哲学教育」においては、実践的な哲学教育プログラムの開発、基盤教育における「哲学」の必修化を図るとともに、国際哲学研究センターの開設を決定しました。「国際化」においては全学部でのTOEICテストの実施、「東洋大学海外留学促進奨学金制度」のスタートを決定し、「キャリア教育」においては、グローバル・キャリア教育センターを設置し、全ての学生が各自のキャリアを構築できるように支援する体制を整えることができました。

総合学園計画のさらなる推進と教育研究環境の整備・充実はもちろん、教育研究内容に即したキャンパス計画にも積極的に取り組んでおります。本学が設置する附属高等学校等においてもそれぞれ教育改革に取り組み、平成25年度に創立50周年を迎える附属姫路高等学校では平成26年度に中学校を開設する運びとなりました。

平成25年度はポスト125の初年度として総合学園計画に基づき幼稚園から大学までの新たな教育体制を構築するために法人、教学が一丸となって具体的な行動計画の実施に取り組んでまいります。

ハイライト / 東洋大学創立125周年記念事業

東洋大学は平成24(2012)年に創立125周年を迎え、創立者井上円了の理念に基づき、建学の精神の共有と継承、多様な教育機会の提供に鑑み、記念事業を行いました。

125周年記念館の建設

125周年記念館は、地下1階・地上8階建てで、大きな開口部から外光が差し込むエントランス空間は、透明感のあるアトリウムとなっており、外に開かれた大学を象徴しています。

中2階を含めた10フロアおよび地下1階・地上2階建ての建物は、学生・教職員・卒業生・一般の方々の利用目的、利用時間、動線を予測し、機能的な配置を実現しています。

また、仕立て松をメインとした大きな前庭を備えた125周年記念館は、地域や自然との調和はもとより、エコポイドによる自然換気の促進やトップライトによる自然採光など、自然エネルギーの活用、環境との調和も図られています。白山の地に根ざした東洋大学はグローバルな視点で教育・研究の国際化



を推進するとともに、大学の機能を広く社会に開放し、地域社会と連携する中で社会的役割を果たしてまいりました。新たに生

まれる環境共生緑地帯は、これからも地域社会と共に生き、活動していく、東洋大学の強い意志を表明するものとなります。

< 125周年記念館概要 >

住 所：東京都文京区白山5-28-20

延床面積：約19,700㎡

[既存建物：61,792.34㎡ 合計：81,492.34㎡]

建ぺい率：45.11% < 62.22% (法定)

容積率：310.89% < 311.12% (法定)

規 模：地下1階 地上8階・

構 造：RC造 一部S造・

建物高さ：38m

創立125周年記念式典

2012年11月23日、創立125周年記念式典を挙行し、招待者約260名が列席しました。

式典に先立ち、125周年記念館の正面に設置された塩川正十郎総長の胸像、および中央エントランスホールに掲げられた陶板美術画の除幕式が行われまし

た。

続いて、真新しい125記念ホールを会場に、創立125周年式典が挙行されました。塩川総長、長島理事長による式辞、各方面からの祝辞の後、竹村牧男学長が「未来宣言」を行い、次世代に向かって進む東洋大学の決意を表明しました。

< 未来宣言 >

東洋大学は、125年の歳月をかけ、創立時の哲学館から今日この日を迎えた東洋大学へと大きく変わることができました。中世ヨーロッパに成立した大学に比べれば、その歴史はあまりにも短く、まだまだ若いと言えます。しかし、本学にとってこの125年は激動の歳月であり、本学を支えてくださった多くの賢人の御尽力により、数々の試練を克服することができました。

創立者、井上円了先生が生涯の使命として実践してきたこと、それはあくまでも在野にあって、哲学教育を通じ、社会の改革に奉仕する優れた人材を育成することでした。円了先生は、物事についてあらゆる角度から思考を深め、真理を探究しぬき、そこで得られた考えを実行に移すこと、すなわち「哲学すること」を重視したのです。また、知性(学力)と徳性(人間力)とを十全に備えた、自主的・主体的に物事に取り組む人間の育成に全力を注ぎました。なお、明治の時代において、円了先生は3度にわたり世界を巡り、東洋と西洋の文化・人間そのものに直接触れ、その体験から日本の伝統を尊重し、かつそれを普遍的な真理に照らして吟味することを訴えました。

東洋大学がこの125年間にわたり、変わらずに次世代へと引き継いできたものは何かと言えば、創立者のこの崇高な理想であり、それは東洋大学のDNAと言えるものです。

いま、世界は大きく変化し、グローバル化の波が我が国にも押し寄せてきています。グローバル化とは何か?それは一言でいえば「世界標準」の仕組みを取り入れ、その中で持続的な成長を遂げることだと思います。この流れは私たちにとって新しい試練になるかもしれません。しかし、東洋大学は困難を恐れず立ち向かいます。東洋大学の役員・教員・職員は信念と決意をもった素晴らしい人材です。一人ひとりが熱い志を胸に秘め、努力を惜みはず、団結して共に働き、新たな課題を乗り越えていきます。なぜならば、「人材の育成」という、円了先生が掲げた崇高な理想を、未来の世代に引き継いでいく責務が私たちにはあるからです。

その実践を通じて、東洋大学は、受験生・保護者・高校の先生方・企業の皆さまから選ばれる大学でありたい、また学生の夢をかなえる大学でありたいと願っています。

私たちは未来に向けてここに宣言します。

東洋大学は、「哲学すること」の教授を根本として、世界標準の教育・研究・社会貢献活動を推進するのみならず、国際的に優れた水準の大学の実現を目指し、役員・教員・職員・学生のすべてが一体となって、卒業生ととも奮闘努力してまいります。今日、未来へ旅立つこの日を胸に刻み、創立者・井上円了先生の崇高な理想を次世代へと届けることを喜びに、地球社会の未来に貢献する大学の確立を求めて、私たちの手で新しい歴史を創出し、進化し続けていくことを誓います。

2012年11月23日
東洋大学 学長 竹村牧男

記念事業プロジェクト

「グローバル人財の育成」を実現するために「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」を教育の3つの柱として推進してまいります。その環境整備のために、以下5つのプロジェクトを展開しています。

1. 建学の精神の共有と継承

本学は、創立者・井上円了の建学の精神を継承し、125年の歴史を歩んでまいりました。

今後も円了の足跡を学び、東洋大学の教育・研究活動のあり方を考える機会を設定し、建学の精神を広く社会に伝える教育活動を積極的に実施します。また持続的発展が可能な社会と未来の構築に向け、創立者の教育理念をふまえた哲学をもった人財、そして自らが考え行動できる人財の輩出に努めます。

1. 国際哲学研究センターにおける研究活動
2. 国際井上円了学会の設立
3. 東洋大学井上円了哲学塾（仮称）の設立準備
4. 哲学教育プログラム開発事業

2. 多様な教育機会の提供

東洋大学の前身である「私立哲学館」創立の趣旨には、「余資なく優暇なき者」のために教育の機会を開放する、と書かれています。この理念を受け、近年では各大学で数少なくなった「イブニングコース」（夜間部）通信教育課程を設置するなど、数々の取り組みを行ってきました。

多様な学修と教育の機会を提供し、より開かれた大学づくりを目指しています。

1. ICTを活用した通信教育の実施
2. 9学科に及ぶイブニングコース（夜間部）の設置

2013年4月に開設された文学部東洋思想文化学科にもイブニングコース（夜間部）を併設

3. 育英事業の展開

創立者・井上円了の理念に基づき、従来から行っている、経済支援型や報奨型の育英事業をさらに充実させていきます。特に、成績を重視しながら経済サポートを行う「育英支援型奨学金」の新設に取り組んでいます。これらは返還を必要としない本学独自の「給付型」支援システムで、文武に秀でた人物のさらなる成長や、経済的に困窮する学生に対する

修学機会の提供を推進します。

1. 創立125周年記念スポーツ報奨金制度の設立
2. 海外留学促進奨学金制度の創設
3. 東洋大学奨学基金の充実

4. 総合学園計画の推進と教育研究施設の拡充

学校法人東洋大学は2011年4月に学校法人京北学園と合併し、1幼稚園、1中学校、4高等学校、1大学を設置する学校法人になりました。これにより、初等・中等教育機関のさらなる充実を図り、総合学園化を推進しています。

各キャンパスにおける教育研究環境の整備・充実はもちろん、教育研究内容に即したキャンパス計画にも積極的に取り組んでいます。

1. 白山キャンパス125周年記念館（8・9号館）が完成
2. 白山キャンパス既存校舎改修工事が完成
3. 川越キャンパスバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟が完成

5. 体育・スポーツ課外活動の充実

箱根駅伝や東都大学野球リーグなど、全国レベルで活躍する本学運動部。知育・徳育・体育による人格形成と、スポーツ文化の充実と強化をさらに推進しています。

板倉キャンパスにおいては、教育研究と連動させた、新たな部活動も始動しています。

1. 陸上競技部女子長距離部門始動
2. サッカー部女子部門の設置
3. 板倉キャンパスサッカー部女子部門合宿所が完成
4. 川越キャンパス体育会合宿所D・E棟が完成

グローバル人財の育成

東洋大学は今、「国際化」と「キャリア教育」、そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを柱に、時代や環境の変化に流されることなく、地球規模の視点から物事をとらえ、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人財（人という財産）の育成」を目標に掲げています。課題発見力やリーダーシップ、語学力と異文化を理解する力、人生を築くキャリアデザイン力、これらは、人や情報やビジネスが国境を超えて展開するボーダーレス社会を生き抜く

力であり、その根底には自分らしいものの見方・考え方が欠かせません。

3つの柱は、そのための教育の基本であり、東洋大学は哲学教育を受け継いできた125年の伝統をもとに、グローバル人材の育成を使命として推し進め、学生一人ひとりの「一生を、生き抜く力」を育てます。

哲学教育

東洋大学は建学以来、哲学を教育の根幹においてきました。創業者・井上円了が求めた哲学とは、いわゆる「哲学者」を育てることではなく、つねに疑問と好奇心を持ち、一人ひとりが自ら判断できる力を養うことにありました。今日のように価値観が多様化し、物事の判断がむずかしい時代に、哲学は地球規模の課題を解決する糸口としても、より重要性を増しています。「なぜだろう？」と問いかけ、自ら考える姿勢を養うことは、全ての学びのはじまりであり、生きる力の原点を築きます。

「国際井上円了学会」の発足

日本が近代国家の体制を模索し始めた明治初期、井上円了という一人の優れた哲学者・教育者が現れました。彼は日本の哲学研究の礎を築き、哲学教育に基づく人材育成のための学校「私学哲学館」を開き、また全国を巡回して一般民衆の知的啓蒙に尽力するなど、生涯にわたり広く教育事業に挺身した人でした。さらに井上円了は哲学関係の著作を初めてとする膨大な書物を残すなど、多彩な業績を認めることができます。

しかしながら、その行跡と功績はまだ本格的には検証されておらず、井上円了の真価は埋もれたままです。

そこで、東洋大学では、2012年、創立125周年を迎えたことを機に、国際哲学研究センターが中心となって、世界的な視野のもとに多彩な業績を研究し、その全貌を明らかにするために、9月を期して「国際井上円了学会」を創設しました。

実践的な哲学教育プログラム事業

「自分なりのものの見方・考え方」を持つことがいかに大切かを伝え、広義の哲学教育ができる実践的な教材の開発・出版を行いました。『哲学をしよう！考えるヒント30』と題し、創立125周年記念式典の招待者、学校法人東洋大学専任教員及び職員（含附属等高等学校）、平成25年度新任教職員さらに広報（含入試）用として配布しました。また、出版社から全国の書店を通じて広く一般の方にも販売を行い、第12回ほんづくり大賞（政刊懇談会主催）優秀賞を受賞（受賞は（株）大成出版）しました。

国際化

東洋大学では語学力を高める教育プログラムや留学・海外研修プログラムを充実させることで、学生一人ひとりの国際社会人基礎力を伸ばし、世界の舞台で活躍できるグローバル人材の育成をめざしています。

学部共通プログラム

全学生 TOEIC 無料受験

Test of English for International Communication の略で、通称 TOEIC と呼ばれている国際コミュニケーション英語能力テスト。近年、就職活動でも TOEIC のスコアが求められる事例が増えています。東洋

大学では、全学生に団体特別受験テストの受験機会を提供し、TOEIC を活用した教育を展開しています。

SCAT

SCAT(スカット)は Special Course in Advanced TOEFL の略で、全学部の学生を対象とした英語の「特別教育科目」です。SCAT（秋学期）・（春学期）の2コースを1年間学習することにより、英語圏の大学に留学しても学習や生活に困らない「使える英語力」を習得できます。東洋大学と長く学术交流協定を結んでいるモンタナ大学の協力のもと、TESOL(外国人向けの英語教授法)の資格を持つ教員が授業を担当しています。留学制度を積極的に利用し、国際社会人としての素養を磨くためにも、SCAT が活用されています。

キャリア教育

キャリア形成にとって大切なのは自己の確立です。東洋大学では、身に付けた哲学と、世界を知ることのできた視点をもとに、自分を知り、将来の生き方へとつなげるキャリア教育を展開しています。キャリア教育科目やインターンシップなどのキャリアプログラムは、その第一歩です。まず、大学生活の中でやりたいことや、将来の目標を思い描くことから始めて、その先にある社会人としてのキャリアを考え、主体的な人生を歩むための価値観を築いていけるよう取り組んでいます。

グローバル・キャリア教育センター Global Career Education Center (GCC)

GCCは東洋大学のキャリア教育の中核を担う存在として、2012年4月に設置されました。これからの時代を主体的に生きる「自立的社会人」を養成するため、建学の精神を礎に、フィロソフィ（哲学・自己探求力）、キャリア（自立力）グローバル化（国際化）の醸成を柱として、すべての学生が各自のキャリアを構築できるよう支援を行っています。

グローバル・キャリア教育センター主催プログラム

GCCでは、初年次から学生の発達に沿ったキャリア支援プログラムを提供しています。プログラムの参加によって、学生が興味関心を広げ、様々な場面で自己の能力開発意欲を高める「気づき」と体験・学習を通して自己肯定感を高め、社会へ出ることの自信を持つよう支援しています。

2012年開講プログラム

ホスピタリティ・ビジネス概論＜全学生対象＞

・第1回「旅のチカラ」を支える企業と人材」

（株）ジェイティービー

・第2回「エス・ティー・ワールドの世界戦略と求める人材

（株）エス・ティー・ワールド

・第3回「帝国ホテルのホスピタリティの神髄とは。」

（株）帝国ホテル

・第4回「自己成長を促すホスピタリティ」

ザ・リッツ・カールトンホテル

・第5回「旅行業実践」(株)ジャルパック

グローバル人材概論＜全学生対象＞

・第1回「日本だけでは仕事は完結しない」

（株）牧野フライス製作所

・第2回「私の考える小説とは」芥川賞受賞作家

グローバル人材養成講座＜全学生対象＞

・青年海外協力隊講座

ANA ゼミ＜全学部2年生対象＞

留学生支援＜留学生対象＞

・就活のための日本語能力テスト

・就活に役立つビジネス日本語講座

イベント行事

創立 125 周年を機に、各種記念行事が行われました。

< 125 周年イベント行事 (一部) >

創立 125 周年記念セミナー・シンポジウム

東洋大学名誉博士ドナルド・キーン博士講演会

2012 年 5 月 26 日 「国際化時代における日本古典文学の可能性」(会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

第 7 回 国際 PPP フォーラム

2012 年 8 月 1 日 「自治体再生の切り札 シティ・マネジメントを考える」(会場: サンケイプラザ)

2012 年 9 月 15 日 国際井上円了学会設立記念公開シンポジウム「国際人井上円了 その思想と行動」(会場: 白山キャンパススカイホール)

国際哲学研究センター主催 国際シンポジウム

2012 年 9 月 16 日 「グローバルな現実に向き合う哲学」(会場: 白山キャンパススカイホール)

『グリム童話』刊行 200 年記念国際シンポジウム

2012 年 10 月 20 日 グリム童話 200 年のあゆみ - 日本とドイツの架け橋として - (会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

バイオ・ナノエレクトロニクス研究関連

2012 年 11 月 17 日 国際シンポジウム「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」を開催(会場: 日経ホール)

2012 年 12 月 7 日・8 日 国際シンポジウム 日本・インド国交 60 周年記念「Advanced Science and Technology」を開催(会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

生命科学研究所主催国際シンポジウム「水・海洋・地球環境俯瞰的に考えるための知的体験」

2013 年 3 月 16 日・17 日(会場: 板倉キャンパス 1102 教室、学生食堂)

2013 年 3 月 19 日(会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

展示・講演

「東洋大学のあゆみ “ 伝統を未来に 125 ”」

2012 年 5 月 1 日～4 日(会場: 文京シビックセンター 展示室 2)

東洋大学の 125 年の歩みと現在の様子を紹介するとともに、創立 125 周年記念事業である「東洋大学図書館特別展示」で展示される普段は閲覧することができない貴重書、展示物をパネルで紹介しました。その他、東洋大学の歴史や創立者・井上円了の紹介などが展示されました。

東洋大学図書館特別展示「存在の謎に挑む 哲学者井上円了」(展示) 2012 年 5 月 30 日～6 月 5 日(会場: 丸善丸の内本店 丸の内オアゾ)

創立者・井上円了の業績を遺品や著書などによって紹介する第 1 章、円了が生涯を通して研究を続けた妖怪文化に関する資料を展覧する第 2 章、東洋大学図書館が所蔵する貴重古典籍を幅広く取り上げた第 3 章の構成で展示を実施しました。

第 1 章 学祖井上円了の目指したもの

- 哲学と教育に捧げた生涯 -

第 2 章 不思議庵主人・円了 - 迷信打破の黎明 -

第 3 章 東洋大学の「知」の資産 - 貴重古典籍への誘い -

(講演) 2012 年 6 月 3 日

「井上円了と勝海舟 - 時代を創った男たち」 三浦節夫(ライフデ

ザイン学部教授)

「百人一首の裾野のひろがり」 神作光一(東洋大学名誉教授)

東洋大学図書館特別展示「美と創造の万華鏡」

2012 年 11 月 23 日(会場: 白山キャンパス 8 号館 1 階ラウンジ) 丸善丸の内本店で開催した特別展示から一部構成を変更し、125 周年記念式典の来賓、参列者、校友等を対象とした展示を行いました。

第 1 章 不思議庵主人・円了 - 迷信打破の黎明 -

第 2 章 近世文芸の魅力 - 民衆の息吹き -

第 3 章 東洋大学の「知」の資産 - 貴重古典籍への誘い -

東洋大学井上円了記念博物館特別展

「井上円了旧蔵コレクション - 東洋大学創立者が残した「宝物」 -」

2012 年 10 月 15 日～12 月 15 日(東洋大学白山キャンパス 5 号館 1 階 井上円了記念博物館)

日本全国、そして世界中から集められたコレクションの数々を通して、近代日本を代表する哲学者、井上円了の教育・研究活動を振り返りました。

大学学長会議

2012 年 12 月 15 日(白山キャンパス 井上円了ホール)

「今日の大学教育とグローバル人材の育成を考える」

現代のグローバル社会における「大学の使命と役割」について国内主要大学の学長と討議し、その成果を広く社会に発信しました。

協定校招聘行事

協定校代表者(18 大学 11 カ国 36 名が参加)を招聘し、歓迎レセプション(2012 年 11 月 21 日)、川越キャンパス訪問(2012 年 11 月 22 日)、式典・祝賀会(2012 年 11 月 23 日) 都内観光・滞在先東京ドームホテルにて生命科学部、アジア PPP 研究所、SCAT の取り組み、国際地域学部プレゼン・懇親会(2013 年 11 月 24 日)を行いました。

ウィリアム・パトラー・イエイツ展

アイルランド大使館提供の展示イベント「ウィリアム・パトラー・イエイツ展」開催に併せて、アイルランドと東洋大学の文化や大学間交流を発展させるイベントを行いました。

(講演・シンポジウム)

2012 年 11 月 10 日(会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

東洋大学名誉博士ドナルド・キーン博士講演会

「日本文化とウィリアム・B. イェイツ」

シンポジウム

「ウィリアム・B. イェイツと井上円了の世界」

(能楽鑑賞会)

2012 年 11 月 17 日(会場: 白山キャンパス井上円了ホール)

ウィリアム・B. イェイツ戯曲 新作能「鷹姫」

(展示)

2012 年 10 月 15 日～11 月 30 日(会場: 白山図書館)

創立 125 周年記念「Autumn フェス」

2012 年 10 月 14 日(会場: 板倉キャンパス 4 号館グラウンド)

学生が企画・運営したイベントで隣同士手を握りしめた形をキーブシ、その人数の多さを競う「クラスビンゴリスト・チェーン」でギネス世界記録に挑戦しました。会場に集まった本学学生・板倉町長をはじめとする近隣住民の方々、1,026 名の繋がりが認定され、ギネス世界記録を樹立しました。

「グローバル人財の育成」に向けた3つの柱への具体的な取り組み

哲学教育

創立者・井上円了は、哲学教育を通じて社会の変革に奉仕する人財を育成することを生涯の使命として実践しました。井上円了が伝えた哲学とは、「自ら深く物事の本質に迫って考えることを実践すること」です。

多様化する現代社会では、学問的知識だけでなく、問題の発見能力や解決能力が強求められています。

こうした「人間としての力」を養い、「自分なりの考え方や、ものの見方ができるようになる」ことが、哲学教育の真の目的です。

「グローバル人財」とは、自分で考え、自分で立ち、お互いが独創性を認めながら、自発的に行動することができる人でもあります。哲学教育とはグローバル時代に必要な力を育むものになるはずです。

<哲学教育の具体的な取り組み例>
 実践的な哲学教育プログラムの開発
 実践的な哲学教育を行うための教材『哲学をしよう！-考えるヒント30-』刊行
 基盤教育で「哲学」分野の学びを必修化
 従来の教養科目を「基盤教育」へと名称変更。基盤教育の柱として「哲学・思想」という分野を新設し、哲学系科目を改めて分類
 井上円了の思想や精神といった自校教育科目の展開
 全学総合科目を通じた「哲学への誘い」、「妖怪学リニューアル」
 インターネットを利用して、白山、白山第2、朝霞、川越、板倉の5キャンパスで同じ授業を同時に受講できるインタラクティブな遠隔講義システムを導入し、「全学総合科目」を開設。
 プログラムのなかには、井上円了が科学的なものの見方を自ら考える第一歩として用いた「妖怪学」を、現代バージョンにした「妖怪学リニューアル」など。本システムを通じ、本学教員が「哲学」「エコ・フィロソフィ」などをテーマにした独自のプログラムを展開。
 国際哲学研究センターの開設
 2011年7月、文科省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択を受けた「国際哲学研究センター」を開設
 国際井上円了学会の設立
 創立125周年記念事業のひとつとして「国際井上円了学会」を設立

国際化

国際社会では、自分の意見をはっきりと持ち、発信できることが当然と考えられています。そのため、本学では「国際化」の取り組みの中で、考える力を養う哲学教育を基本としながら、語学力を高める教育プログラムや留学・海外研修プログラム、語学セミナーなどを充実させ、国際社会人としての基礎力を体得できるようさまざまな試みを行っています。

異なる文化の中に飛び込み、多様な人々と対話することで、国際的な視野と世界に向けた発言力が身につきます。世界の中で生きていく時代のなかで活躍できる「人財」を数多く輩出したいと考えています。

<国際化の具体的な取り組み例>
 語学力の強化
 全学 TOEIC 無料受験、英語特別教育科目「SCAT」(Special Course in Advanced TOEFL)
 学びのフィールドを広げる
 「東洋大学海外留学促進奨学金制度」スタート、海外留学、海外ボランティア、海外インターンシップへの参加
 国際的な視野を醸成
 経営学部の GBC (Global Business Communication) セミナー、国際地域学部の大使リレー講義、ESP (English Special Program for Regional Development Studies) ほか、英語のみで行われる授業、留学・海外研修のための事前講座や、途上国における社会貢献、青年海外協力隊、国際舞台で活躍するビジネスパーソンなどをテーマにし、ゲストスピーカーを招いた講座
 研究分野から世界へ発信
 日本初の PPP スクール (経済学研究科公民連携専攻) における蓄積をベースに、欧米研究機関と連携するとともに、アジア PPP 研究所 (APPPI) を設立し、近い将来に飛躍的な発展が期待される東南アジアにおける PPP を推進
 バイオ・ナノエレクトロニクス研究センターの国際拠点化
 各種伝統文化講座の実施
 文学部主催の能楽鑑賞教室をはじめ、三味線演奏を堪能・体験できる新内節演奏会、聲明公演(しょうみょうこうえん)

キャリア教育

キャリア教育において育まなければならないのは自立心です。社会人には自分で考え、選択できる力が必要です。そのためには豊富な経験に基づく知識や自信、人間関係に対する信頼感をどれだけ蓄積できるかが重要になります。自立心の芽生えをサポートするために、本学のキャリア教育では好奇心やチャレンジ精神を刺激する数々の仕掛けを用意しています。

変革の時代の中、テクニカルスキルがすぐに陳腐化する一方で、数値化が難しいパーソナルスキル(創造力や言語力、読解力、協調性など)がさらに重視されています。国際化が進むから言語力を高めるという表層的なことだけでなく、本学の学生には、あらゆる分野の学問を学び、物事の本質を見極めるために「真摯に考える」ことができる、優れた「グローバル人財」の育成を目指します。

<キャリア教育の具体的な取り組み例>
 グローバル・キャリア教育センター
 フィロソフィ(哲学) キャリア(自立心) グローバル(国際化) という側面から、すべての学生が各自のキャリアを構築できるように支援。
 全学的な各種プログラムの展開
 グローバル・キャリア教育センターが主催する数々の講座は、いづれも全学部対象で年間を通じて実施。

国内・海外インターンシップの促進
インターンシップなどのキャリア・プログラムの拡充を図り、国内インターンシップでは、事前・事中・事後の総合プログラムを独自に作成。

正科内に「社会人基礎科目」を設置
2012年度からのカリキュラムでは、各学部の基盤教育に「社会人基礎科目」を新たに設置し、「社会人基礎学力入門講義」「企業のしくみ」「企業家論」など、1年生からキャリアを考えさせる科目を必修化。

生徒から学生へ、学生から社会人への「移行期支援」
高校から大学へ、大学から社会へ。この2つの移行期をしっかりとブリッジする移行期(教育)支援を実施。入学直後の受動的な「生徒」から能動的なスタイルが求められる「学生」や「社会人」になるために、さまざまなプログラムやオリエンテーションを用意。

留学生の就職支援
本学で学ぶ留学生に対しては、日本語力や英語力の向上および日本文化や日本の就職活動の理解を深めることを通じ、就職支援を強化。

「東洋大学 自立形成力 アセスメント」の実施
経済産業省が提唱する「社会人基礎力」と、文部科学省が提唱する「学士力」を受けて、東洋大学では全新生に「自立形成力」を測るアセスメントを実施します。

社会で求められるジェネリックスキル(汎用的な能力・態度・志向)について、知識を活用して問題解決する力(リテラシー)と経験を積むことで身についた行動特性(コンピテンシー)の2つを測定します。

自分自身の現状を把握し、大学生活での学びと多様な活動を主体的かつ効果的に進めるための自己理解のアセスメントです。

R-CAP 適職診断テスト

R-CAPとは、140職種2万人の社会人データを基に、興味・価値観・志向を測定することで、どういった職場・職種に向いているかを客観的に診断するテストです。

大学の競争力、ブランド力、社会的評価の向上

文部科学省「グローバル人材育成推進事業タイプB(特色型)」に採択

文部科学省「グローバル人材育成推進事業 タイプB(特色型)」に本学国際地域学部の取り組みが採択され、2012年から2016年度までの5年間にわたりグローバル人材育成事業に係わる補助金を受けることになりました。

「グローバル人材育成推進事業」は、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化を基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し、活躍できる人材の育成を図るべく、大学教育のグローバル化を目的とした体制整備を推進する事業に対して、重点的に財政支援することを目的としたものです。

国際地域学部が採択された「タイプB(特色型)」には、全国の国公私立大学から111件(私立大54件)の申請があり、うち31件(私立大15件)が採択されました。

本タイプ採択大学においては、今回の対象となる国際地域学部以外の他の学部・研究科等を含めた大学全体のグローバル化推進に貢献する取組の実施が求められます。

<国際地域学部プログラムの内容>

国際地域学部の教育理念は、「現場主義」に立ち、テーマ型・課題解決型の学部・学科として、国内外の「地域づくり」「観光振興」に貢献する国際的な視野 Think Globally, Act Locally を持った職業人(=グローバル人材)を養成することにあります。1997年の学部開設以来、その教育理念の実現に向け、学部主催の短期・長期海外研修制度の創設と拡充、英語を中心とした語学カリキュラムの充実など、さまざまな取り組みを行ってきました。

2009年度からは英語特別プログラム English Special Program (ESP)を立ち上げ、国際社会での活躍を志す学生への支援を積極的に行っています。

今回はこれまでの取り組みを踏まえ、従来のプログラムに加え、副専攻 Global Human Resources Development Program (GHRDP)の創設、Language Center や海外拠点の設置、学内留学プログラム Study Abroad in HAKUSAN, TOYO (SAIHAT) 推進と国際交流ポイント制度の創設などを国際センターと連携しながら構築します。

これにより 語学力やコミュニケーション能力の更なる強化、留学や研修、インターンシップの連携や学生の現場体験、異文化理解や日本人としてのアイデンティティの醸成、を通じ「現場主義」に基づく国内外の「地域づくり」「観光振興」に貢献できる人材を持続的に輩出する仕組みづくりを進めていきます。

文学部教育学科「往還型教育システム(東洋大学モデル)による学士力の育成」

2008年4月、文学部教育学科に初等教育専攻が設置されました。教育学科では、この初等教育専攻の設置にあたり、学生の大学での学びと小学校での体験を有機的に関連づけることの意義を確認し、設置申請書にもその仕組みである往還型教育システムについて具体的に言及しました。そして、この往還型教育システムによる取り組みが、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」(2009年度~2011年度)に採択され、3年間の取り組みを2012年3月に最終報告書としてまとめ報告しました。この最終報告書に基づき、2012年度に独立行政法人日本学術振興会の大学教育等推進事業委員会による調査が行われました。調査は、まず各大学等から提出された前記最終報告書に基づく書面調査が行われ、その中から特に優れており波及効果が見込まれると判断される取組として選定された16件の中にこの「往還型教育システム(東洋大学モデル)による学士力の育成」も選ばれ、次いで調査委員による学生へのインタビューも含む現地調査が行われました。以下に、公表された審査結果の

一部を紹介します(大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム審査結果表より)。

<審査結果>

当該取組は、本事業の趣旨に照らして審査を行った結果、教育の質の向上への大学等の対応が優れているとともに、取組の実現性、一定の成果と今後の展開についても期待できると評価できる。

特に優れた点:幅広い教養と実践的な指導力をもつ教員養成を目的としたプログラムであり、目的は明確である。成績評価基準についてもオリジナルな視点がありかつ明確である。試みとしては興味深く、現場を大切にしている点は評価できる。特に1年次から小学校の現場と行き来しながら学べる体制は有益である。

その他の助言や期待:年次毎の活動や評価方法をより具体的に策定し、適切な評価が行われることを期待する。4年間でのような教育効果を狙うのか、更に詳細に検討し、その実現に向けて努力することが望まれる。現場の授業観察では、授業後の教員同士による意見交換、次の授業のための検討など、現状では簡単にWeb化しにくい多様な情報が活用される。そのような情報を実習状況共有システム上で共有可能にし、活用する方法についても検討されることを期待したい。

大学の「教育力」に関するアンケート

大学教育の水準を向上させることを目的として、卒業生を対象としたインターネット上でのアンケートを実施しました。

<大学の「教育力」に関するアンケート>

概要:平成10年度~平成21年度に本学を卒業された方の中から、約18,000名を無作為に抽出して実施
調査内容:大学生生活を振り返っていただいて、本学での生活環境や教育・研究等が、実際に社会に出てからどの程度役に立っているか等

学習支援・環境の整備

法科大学院「特待奨学生」制度

法科大学院では平成24年度入学生より、学生の経済的負担を極力軽減し、自学自修に専念できるよう、「特待奨学生」制度を導入しました。本制度は、将来法曹界での活躍が期待される優秀な学生を輩出することを目的としたものです。

<法科大学院「特待奨学生」制度概要>

採用期間

給付は、単年度採用としますが、選考基準をクリアすれば、最大では標準在学年限の間、連続採用が可能です。

特待奨学生の待遇

「特待奨学生」には学費が減免され、さらに学習奨励金が入学後に給付されます。

通信教育課程 3つの改革

通信教育課程において、創立者・井上円了の掲げた「余資なく、優暇なき者」のために学習機会を提供するという東洋大学の前身の哲学館創設時の思いを実現させた形の改革を行いました。

<通信教育課程 3つの改革 概要>

定額制授業料

スクーリング受講費用や単位認定試験受験費用などを授業料に包括した「定額制授業料」がスタートしました。このような定額制学費の導入は国内でもまれな取り組みで、社会人学生の手続きの簡便さ、ひいては学習継続率の向上も期待できます。

新カリキュラム

2012年度1年次入学生より、第1部・イブニングコース(第2部)と互換性を高めた新しいカリキュラムがスタートしました。これにより、第1部の学生とイブニングコース(第2部)の学生が相互に授業に参加できるようになり、社会人学生のニーズに合わせた学習環境が整いました。

メディア授業

本学で2012年度より導入しているメディア授業は、「microSDカード」()を用いた方法です。これは、授業動画が格納されている「microSDカード」を一定期間(25日間)貸出しし、視聴後返却するという方法です。

この方法ではワンセグ携帯電話やワンセグTVなど、ワンセグ録画ができる多くの機器で授業動画が視聴できます。(一部機器では対応しない場合があります。)授業動画は、「microSDカード」に格納されているので、視聴に通信料はかかりません。

()携帯電話やスマートフォンなどで一般的に用いられている記憶媒体です。小指の爪先ほどの大きさで大容量のデータを記憶できます。

これにより、通勤などでの「すきま時間」を学習に使うことができ、本学通信教育課程で目指す「いつでも、どこでも、だれでも」という学習機会の提供が実現しました。

被災学生への減免措置

本学では、支援を決定した自然災害による災害救助法適用地域の被災世帯在学学生ならびに入学を希望される方200名に対し、学費等納付金の減免措置を行いました。

<東洋大学が支援を決定した自然災害>

- ・2011年3月11日に発生した東日本大震災による災害救助法適用地域(対象:2012年度入学生)
- ・2011年7月の大雨による災害救助法適用地域(対象:2012年度入学生)
- ・2012年1月~2月の新潟県の大雪による災害救助法適用地域
- ・2012年5月に発生した突風等による災害救助法適用地域

FDの取り組み

<FDとは>

FD(ファカルティ・ディベロップメント)とは、一般的には「教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取り組みの総称」と定義されます。

具体的な例として、「教員相互の授業参観」「授業方法についての研究会の開催」「新任教員のための研修会の開催」等が挙げられていますが、単に授業内容・方法にとどまらず、広く教育の改善ととらえ、カリキュラムの改訂や編成なども含め、学生の学習意欲の向上と教育の質の向上を図り、教育目標を実現させることにFDの意義があります。

2012年度新任教員FD研修会

新任教員を対象にしたFD研修会は2007年度より実施しており、今年度も、着任後2ヶ月を経過した6月に開催しました。その目的は、本学の教育理念に基づく教育活動からFDへの取り組みについて理解し、日頃の教育研究活動に役立てること、新任教員間や

先輩教員間の親睦を深めること、学校法人東洋大学の一人としての認識を共有することです。

今年度は新たにミニシンポジウムをプログラムに取り入れ、「東洋大学の風景と教育における実践と課題-大教室授業における苦労と工夫-」について議論をしました。

また、学生からの視点を聞く機会として、東洋大学学生 FD 研究チームより、「学生が望む授業改善、よい授業とは」についての報告がありました。後半のグループディスカッションでは、このテーマに関する意見交換および、日頃の悩みや疑問点等について議論をしました。

2012 年度 一般教員 FD 研修会

2012 年 10 月 19 日、白山キャンパスにおいて、教職員を対象に 2012 年度一般教員 FD 研修会を開催しました。

講師には、鈴木典比古氏（公益財団法人大学基準協会専務理事・前国際基督教大学学長）をお迎えし、「グローバル化下における大学教育の質保証～GPA の活用やシラバスの充実などの取組から～」と題する講演をいただきました。

講演会は白山キャンパスで開催いたしましたが、川越・板倉・朝霞キャンパスに、授業配信システムを利用して同時配信し、約 100 名の教職員が参加しました。

2012 年度関東圏 FD 学生フォーラム

2012 年 9 月 17 日、白山キャンパスにて「2012 年度関東圏 FD 学生フォーラム」を開催しました。東洋大学、法政大学、青山学院大学、立教大学の学生 FD スタッフと教職員で構成される関東圏 FD 学生連絡会は、「イベント等の開催を通して学生 FD 活動を活性化させ、学生の主体性と大学教育の向上を目指す」ことを活動の柱の一つにしており、今回この取り組みの一環としてフォーラムを開催しました。当日は、関東圏を中心に 50 名ほどの学生・教職員が参加して、「受けなくなる、よい授業とは？」という全体テーマのもと、学生、教員、職員が三位一体となって議論を繰り広げました。

125 周年事業への学生の参加

フォトコンテスト作品募集

東洋大学創立 125 周年にあたり、東洋大学にまつわる写真とエピソードを公募し、169 点の作品が投稿

されました。

<フォトコンテスト>
テーマ 東洋大学の「感動」「素敵な思い出」「楽しい日常風景」
募集内容 東洋大学にまつわる写真&エピソードをセットで募集
応募資格 東洋大学生とその家族、卒業生、教職員、附属高等学校生徒、併設校生徒
選考 専用 Web サイトでの一般投票ならびに審査員(タレント：W コロンねづち(本学卒業生) 他)により決定
審査員賞 5 点、特別賞 1 点、入選 94 点

論文コンテスト

東洋大学のこれまでの実績を踏まえ、伝統を未来に繋ぐ大学を目指すべく論文コンテストを実施し、40 点の作品の応募がありました。

<論文コンテスト>
キーワード 「哲学」「国際化」「未来」
応募資格 東洋大学学部生・大学院生・通信教育生
選考 審査委員会で厳正なる審査を行い、入賞論文を決定
最優秀賞 1 点、優秀賞 3 点、入賞 11 点

就職支援の充実

東洋大学会社説明会～10 学部合同就活 LIVE～

2013 年 3 月 12 日、東京国際フォーラムにて東洋大学全 10 学部の 3 年生を対象とした「東洋大学会社説明会～10 学部合同就活 LIVE～」を開催し、約 850 名の学生が参加しました。

本学では、従来より各キャンパス(各学部)において学内会社説明会を実施していましたが、前年度からはさらに、全学部の学生が参加できる学外会場説明会を開催しています。

活発な課外活動

東北応援プロジェクト(TOP)

2011 年度に引き続き、今年度も東北応援プロジェクト(TOP)として、東北各地に学生ボランティアを派遣しました。

東日本大震災は未曾有のものとなり、現在もきわめて多くの人手による復興支援が必要とされています。本学としても、これに関わる学生のボランティア活動に対し、今年度も昨年度に引き続き積極的に支援することとし、当該学生に履修科目について不利益が生じないよう、配慮を行いました。

<東北応援プロジェクト(TOP)>
遠野 8/19～9/10 参加者約 60 名
気仙沼 8/7～9/20 参加者約 100 名
遠野 2/14～3/22 参加者約 100 名
気仙沼 2/11～3/24 参加者約 100 名

研究活動の情報発信

国際 PPP フォーラム(創立 125 周年記念行事)

2012年8月1日、大手町サンケイプラザにおいて、第7回国際 PPP フォーラム『自治体再生の切り札シティ・マネジメントを考える』を開催しました。当日は自治体関係者の方を含む一般の参加者約400名が出席し、「自治体を経営する」という考え方について興味深く耳を傾けました。

<第7回国際 PPP フォーラム>
 基調講演 1「シティ・マネジメントの役割と効果～シティ・マネジメントは日本にも広まるか」
 ロン・カーリー氏(国際シティ/カウンティ・マネジメント協会専務理事)
 基調講演 2「バランス・バジェットへの挑戦～アメリカの取り組みと日本への応用可能」
 グレン・ロバートソン氏(元全米・州バジェット・オフィサー協会会長)
 パネルディスカッション「日本の自治体経営」
 パネリスト 増田寛也氏(元総務大臣・前岩手県知事)
 穂坂邦夫氏(地方自立政策研究所理事長・元志木市長)

バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催国際シンポジウム(創立 125 周年記念行事)

2012年11月17日、東京大手町日経ホールにて、東洋大学 125 周年記念バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター主催国際シンポジウム「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」が、約500名の参加者のもと行われました。

<バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター国際シンポジウム「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」>
 基調講演 1
 ダニエル・モース博士(サイエンティフィック・アメリカン TOP-50 イノヴェーター)
 基調講演 2「豊かな社会・平和な世界を築くための科学・技術・教育の役割」
 掘越弘毅氏(東洋大学学術顧問)
 パネルディスカッション

また、2012年12月7日・8日、東洋大学白山キャンパス井上円了ホールにてバイオ・ナノエレクトロニクス研究センターと大学院学際・融合科学研究科、および Indian JSPS Alumni Association 主催による国際シンポジウム「Advanced Science and Technology」が開催され、両日あわせて延べ約400名の参加がありました。

今回のシンポジウムは、日本・インド国交60周年および本学創立125周年記念事業の一環となるもので、インド大使館と日本学術振興会の共催のもと、Deepa Gopalan Wadhwa 駐日インド大使、戸渡速志日

本学術振興会理事を招いて開会式が行われました。

日本からは2008年度ノーベル物理学賞受賞者の小林誠氏、カーボンナノチューブの発見者である飯島澄男氏(名城大学/独立行政法人産業技術総合研究所)が、インドからは R.Chidambaram 博士(Principal Scientific Advisor, Government of India)、A.Jayakrishnan 博士(Kerala 大学 学長)が基調講演を行いました。さらに国内外の研究者が最先端科学技術について発表したほか、ポスターセッションでは、日印の若手研究者がナノテクノロジー・バイオテクノロジー・バイオナノ融合分野の研究成果を発表しました。

初日の講演終了後には、インド舞踊、そして本学学生による箏(箏曲研究会)や尺八(尺八サークル「徒然草」)の演奏が行われ、日印文化の交流を深めました。

国際哲学研究センター主催国際シンポジウム(創立 125 周年記念行事)

2012年9月16日、東洋大学白山キャンパス2号館16階スカイホールにて、東洋大学国際哲学研究センター主催の国際シンポジウム「グローバルな現実に向きあう哲学」が開催されました。4名の講演者(うち3人は海外から)を招いての国際色豊かなシンポジウムであり、それぞれの専門分野からテーマに対する提題がなされました。日本語に加え、フランス語・英語でも発表がなされましたが、来場者は同時通訳者による通訳音声をレシーバーにて聞くことができるかたちのシンポジウムであり、100名程度が参加する盛会となりました。

<国際哲学研究センター主催国際シンポジウム「グローバルな現実に向きあう哲学」 発表概要>
 「ジャイナ教における非暴力の哲学的正当化」
 ジャヤンドラ・ソーニー博士(オーストリア・インスブルック大学講師)
 「徳川日本の心学運動における中国的要素 「儒学の日本化」と兼ねて」
 呉震教授(中国・復旦大学)
 「グローバリゼーションの時代における人間の条件」
 エティエンヌ・タッサン教授(フランス・パリ第7大学)
 「アメリカに浸透する仏教：その現状と意義」
 ケネス・田中教授(武蔵野大学)

東洋大学学術情報リポジトリ

2012年10月、東洋大学学術情報リポジトリ(<https://toyo.repo.nii.ac.jp/>)を正式公開いたしました。リポジトリとは、論文や研究報告書などさまざまな学術情報を簡単にインターネットに公開できるサービスです。

2012年7月23日より、学内ネットワークを対象に試験公開をしておりましたが、正式公開により世界中のどこからでもインターネットを通じて論文等のコンテンツをダウンロードできるようになりました。

今後、外部サイトとのデータ連携を随時進めていく予定です。データ連携により、さまざまなサイトからリポジトリに登録されているコンテンツへのアクセスが可能になります。

科研費研究会（情報交換会）

2013年2月25日、本学が幹事校を務める大学知的財産・産学連携担当者ネットワーク主催による「科研費研究会（情報交換会）」を、東洋大学白山キャンパス・8号館の125記念ホールで開催しました。

本研究会は、各大学・機関において科学研究費助成事業（科研費）の事務サポートを行う実務者（職員等）が一堂に会し、適正な研究費の執行・管理体制構築や、研究者の応募サポート等について、意見・情報交換を行うもので、今回は全国21機関から40名を超える担当者が参加しました。



産学連携

「国際産学官連携」人材育成事業（研修） （創立125周年記念事業）

2012年9月2日～21日、本学協定校でもあるフィリピンの「サンホセ・レコルトス大学」から2名の工学系教員が来日し、本学川越キャンパス等で研修に参加しました。

この研修は、本学の創立125周年事業「アジアのものづくり・人材育成事業」の一環として実施されたもので、フィリピンで『日本のものづくり精神』を教育することを通して、日本独特のものづくり精神を理解した学生の現地日系企業への就職を支援することにより、国際的な枠組みで産学官連携を推進する試みです。

また、本事業は、埼玉県が推進する「埼玉・アジアプロジェクト」と連携していることから、研修期

間には県庁を訪問し、埼玉県の県民生活部長等と今後の連携検討を含めた情報交換を行いました。

川越市と東洋大学との連携会議

2012年7月13日、第1回「川越市と東洋大学との連携会議」を東洋大学で、第2回を2013年2月22日川越市立美術館で開催しました。

川越市と東洋大学は、教育研究等における協力関係について包括協定を締結し、現在も多方面で連携関係を構築しています。

2012年度は川越市の市制90周年、本学は創立125周年を迎え、また川越キャンパスは開設51年目に入り、更なる連携について意見交換すべく、実施されました。川越市より15名、本学より14名が参加し、活発な議論が行われました。

知的財産の活用

知的財産・産学連携推進センターは、広く技術研究開発に役立つ知財実務知識を学んでもらう、知的財産実践セミナーを開催しました。当センターでは、今後も様々な活動を通して、大学の知的財産を社会に発信し、産学連携活動の推進に寄与してまいります。

知的財産実践セミナー（板倉）

2012年7月23日、「知的財産実践セミナー」を板倉キャンパスで開催しました。

当日は、現場経験も豊富な野原時男・東洋大学知的財産管理アドバイザーが、「中国知的財産問題の現状-脅威の中国パワー-中国との食品知財紛争は解決できるのか?～」と題して、今話題になっている中国の著作権問題を様々な事例をもとに講演を行いました。

知的財産実践セミナー（朝霞）

2012年10月6日、「知的財産実践セミナー」を朝霞キャンパスで開催しました。

セミナーでは、野原時男・東洋大学知的財産管理アドバイザーが、「これからのデザイン創作者へ-デザインの力と知的創造社会」と題して、これからのデザイン創作者に向けて、デザイン力を知的創造社会で活かしていく為の知的財産権の考え方について事例を交えて紹介しました。

大学は、教育と研究を本来の使命としていますが、大学の第3の使命として「社会貢献」が強調されるようになってきています。本学では、1887年の創立時から125年の伝統により培われた「社会教育・生涯学習」の精神に基づき、大学が持っている「知」を広く社会に還元するという社会貢献としての活動に、早くから様々な形で取り組んできました。「学校法人東洋大学行動規範」において「私たちは、常に地域社会への貢献や連携を考え、開かれた学校づくりを行い、社会貢献を教育機関の重要な役割の一つと考え、教育研究の成果を積極的に社会に還元します。」と謳っているとおり、今後も一層の充実を図っていきます。

建学の精神の普及

創立125周年記念事業「東洋大学全国行脚講演会」

東洋大学の創立者であり哲学者である井上円了は、1890年から大連で最期を迎える1919年まで、哲学の普及を目指して国内外を巡回し講演を行いました。その講演数は記録にあるだけでも2198町村・5291回にのぼります。

そして今日、井上円了の志を継ぐ本学は、大学の講義を全国各地にお届けする「講師派遣」をはじめ、多くの方々に開かれた学びの場を提供する取り組みを積極的に展開してきました。

東洋大学は2012年に創立125周年の年を迎え、大きな節目となるこの機に、いまだ一度、創立者・井上円了博士の志に立ち返り、「知」をもって社会に貢献すべく、全国行脚講演会を実施し、2013年度も引き続き実施いたします。



全国行脚講演会 in 東京
日時：2012年6月10日
場所：東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）
【第1部】「井上円了賞」受賞報告会
【第2部】講演 「井上円了の人と思想」
竹村牧男（学長・文学部インド哲学科教授）
「井上円了の人と思想」
講演 「日本の伝統文化 - 芸能文化を中心として」
中山尚夫（文学部長・文学部日本文学文化学科教授）
聴講者：約400名
全国行脚講演会 in 名古屋
日時：2012年7月8日
場所：名古屋国際会議場（愛知県名古屋市）
講演：竹村牧男（学長・文学部インド哲学科教授）「井上円了の人と思想」
神田雄一（副学長・理工学部機械工学科教授）「日本型ものづくりの伝統と未来」
聴講者：約250名

全国行脚講演会 in 福岡
日時：2012年8月4日
場所：福岡ソフトリサーチパーク（福岡県福岡市）
講演：竹村牧男（学長・文学部インド哲学科教授）「井上円了の人と思想」
吉田公平（文学部中国哲学文学科教授）「東アジア漢字文化圏の特質と現代的意義について」
聴講者：約100名
全国行脚講演会 in 仙台
日時：2012年9月1日
場所：仙台国際センター（宮城県仙台市）
講演：竹村牧男（学長・文学部インド哲学科教授）「井上円了の人と思想」
藤井敏信（国際地域学部長・国際地域学部国際地域学科教授）「杜の都・仙台的すがた」を再び構想しよう 東日本大震災から学びつつ」
聴講者：約140名

作品募集「井上円了が志したものとは」

東洋大学の創立者、井上円了の偉大な志とは何かを探求すること、円了を探訪し、井上円了の目指した教育とは何かを考え、井上円了の志したものと現在の自分自身を照らし合わせて考察することを目的として作品を募集し、1,188篇の応募がありました。

この作品募集は、本学学生を対象とした「東洋大学生の部」、一般の方々を対象とした「一般の部」、附属姫路高等学校、附属牛久高等学校、京北高等学校・京北学園白山高等学校の生徒を対象とした3つの「高等学校の部」の計5部門で行なわれました。「東洋大学生の部」「一般の部」では、学長を選考委員長とし、高等学校の3部門では、各高等学校長を選考委員長とした選考委員会をそれぞれ組織し、厳しい審査を経て入賞作品が決定されました。また、優秀賞の中から最も優れた作品には、部門ごとに東洋大学長賞が授与されました。

公開講座

本学では、生涯学習への取り組みとして春期と秋期にエクステンション講座、文化公演、学術講演会、市民大学講座などの公開講座を実施しました。一般

の方はもちろん、本学在学学生・卒業生、他大学生など、どなたでも講座に参加することができます。

講師派遣

創業者井上円了の教育理念でもある「社会教育・生涯学習」の考え方を継承し、大学の持つ「知」を社会へ還元することを目的として講師派遣を行っています。

10 学部 44 学科、大学院 10 研究科、さらに法科大学院を擁する東洋大学は、多様なテーマを用意し、幅広い専門性を持って、社会教育・生涯学習に貢献しています。

【総合的な学習の時間支援プログラム】

高等学校の『総合的な学習の時間』等の講演会へ本学の専任教員を派遣し、それぞれの専門分野を活かした講義を行います。

高等学校の生徒を対象としたプログラムです。

【生涯学習支援プログラム】

教育委員会、生涯学習・社会教育・社会福祉の各種団体および小中高等学校の教職員・PTA 等で企画する講演会・研修会等へ、本学専任教員を派遣します。

社会人の方を対象としたプログラムです。

なお、本事業では、本学が講師の講演料・交通費・宿泊費を負担して実施しています。

【2012 年度テーマ分野】(生涯学習支援プログラム)

井上円了の生きた時代
環境のためにできること(エネルギー・地球温暖化・リサイクル・ごみ)

あふれる情報とどうつきあうか

(災害・個人情報・情報の読み方・インターネット)

健康を考える(運動・食)

ともに生きる社会をめざして(医療・身体・福祉・障害・共生・人権)

学ぶこと・育てること(学校・しつけ・若者・親子)

東洋大学は地域を応援します(地域社会・まちづくり)

人間関係とコミュニケーション(ことば・コミュニケーション・心理)

長寿社会を生きる・人生の満りの時期を豊かにするために

(高齢者・人生論)

文学に親しむ(日本文学・外国文学)

ところを見つめる(こころ・宗教・哲学)

暮らしを変える科学技術(工学・科学・技術・数学)

毎日の生活に役立つ経済の話(身近な経済・日本経済・世界経済)

法律・行政を身近なものに(法律・行政・観光)

人間が歩んできた道(歴史)

国際社会と異文化理解(異文化・外国)

地域連携・社会貢献

東洋大学文化講演会

附属高校、併設校が所在する姫路市、牛久市、北区において、社会貢献活動の一環として地域の方々

に生涯学習の機会を提供する目的で東洋大学文化講演会を開催しました。

東洋大学文化講演会 in 牛久

日時：2012 年 10 月 13 日

場所：東洋大学附属牛久高校(茨城県牛久市)

講演：竹村牧男(学長・文学部インド哲学科教授)「井上円了の人と思想」

藤井敏信(国際地域学部長・国際地域学部国際地域学科教授)「国際化社会とこれからの若者の生き方」

聴講者：約 300 名

東洋大学文化講演会 in 姫路

日時：2012 年 10 月 20 日

場所：姫路市民会館(兵庫県姫路市)

講演：北脇秀敏(副学長・国際地域学部国際地域学科教授)

「国際協力のすばらしさ」

小川芳樹(経済学部長・経済学部総合政策学科教授)

「日本の未来のエネルギー問題」

聴講者：約 200 名

東洋大学文化講演会 in 北区

日時：2012 年 10 月 28 日

場所：赤羽会館(東京都北区)

講演：ドナルド・キーン(東洋大学名誉博士(学術顧問))

「日本の伝統文化について」

高橋儀平(ライフデザイン学部長・ライフデザイン学部人間環境デザイン学科教授)

「高齢化社会のまちづくりについて」

聴講者：約 500 名

「ステップイヤー制度」

「ステップイヤー制度」とは、イギリスなどで浸透している「ギャップイヤー制度」を参考にした、本学独自の新規事業です。創立 125 周年記念事業の一環として、広く社会貢献を果たす仕組みを創出するものとして計画されています。具体的には、休学制度を活用して、長期(1 年以内)にわたり学業を離れ、社会貢献活動等に参加する経験を通じて、自分自身の将来について再考する時間を持つ学生を支援するための制度です。

2012 年 12 月 4 日、白山キャンパスにて、シンポジウム「ステップイヤーによる非日常的自己発見への誘い」を行い、約 50 名が参加しました。開会に際し、竹村牧男学長より「在学中のギャップイヤーであるステップイヤーが日本社会を変えることを期待する」と挨拶があり、続いて、青木辰司社会学部長が基調報告として、地域貢献型教育制度としてのステップイヤーにおける派遣学生と受け入れ自治体等双方にとっての意義と可能性について述べました。その後、派遣されている学生 2 名が実践報告を行いました。

なお、2013 年 1 月 15 日に 2013 年度「東洋大学ステップイヤー募集説明会」が開催され、約 40 名が参加し、4 名が応募しました。



東洋大学附属姫路高等学校
校長 橋本 俊雄

生徒と教職員が共に成長し続け、
常に進化し続ける学校づくり

東洋大学の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を基底に据え、「自立・友情・英知」の校訓のもと、次の3の人間像を理想とし、その育成に取り組んでいます。

- 1 多様な価値観を学習し理解するとともに、自己の哲学(人生観・世界観)を持つ人間
- 2 先入観や偏見にとらわれず、物事の本質に迫り、論理的・体系的に深く考えることのできる人間
- 3 社会の課題に自主的・主体的に取り組み、良き人間関係を築くことができる人間



〒671-2201 兵庫県姫路市書写 1699 番地
Tel 079(266)2626 Fax 079(266)4590
URL: <http://www.toyo.ac.jp/himeji/>

教育活動

2013年の創立50周年を節目とし、東洋大学の「哲学教育」「国際化」「キャリア教育」の3つの柱を踏まえた教育を、附属高校である本校も展開すべく次の50年に向けての新しい挑戦を始めています。

2011年度には、難関国立大学現役合格を目指すスーパー特進コースを新設し、単に進学実績の向上だけではなく、大学入学後や社会人になってからも力が発揮できる人材の育成に鋭意取り組んでいます。

また、従来の特進コースも1クラスにしばり、少人数授業等きめ細やかな教育を展開しています。

さらに、2012年度からは生徒数の7~8割を占め、学力差の大きい総合進学コースの教育改革にも取り組みました。具体的には、習熟度別クラス編成を採り入れ、一人ひとりの学力に応じた授業が展開できるよう授業形態・授業内容の見直しを図りました。このような取り組みによって、さらなる学力アップやクラブ活動の充実など、文武両道の伝統の推進を一層加速させています。

大学との連携の充実

恒例になりつつある1年生全員を対象とした「東洋大学見学会」が6月に実施され、附属高校生としての意識と大学への関心が高められました。また、本年度で9年目となったTV会議システムを利用した大学教員による授業や学部・学科説明会が行われました。一般市民向けには本年で3回目となる「東洋大学文化講演会 in 姫路」が10月に実施され、当地域における東洋大学の存在感を一層高めることができました。新企画としては、8月下旬にスーパー特進コース2年生の課題研究旅行(2泊3日)を生命科学部

において実施し、生徒にとって貴重な体験となりました。

課外教育

2年目を迎えた1年生スーパー特進・特進コース合同の学習合宿を4月末に実施しました。また、オーストラリアでの海外語学研修も夏休みに実施しました。部活動においては、弓道部・柔道部・ゴルフ部・ソフトボール部が全国大会に、野球部・剣道部・空手道部・写真部が近畿大会に出場しました。

入試広報活動

2011年度はレベルアップのために募集内容・入試制度を変更した影響もあり、募集定員を充足することができませんでしたが、外部からは「東洋大姫路は変わった」という声が増しに大きくなってきています。学校改革3年目の来年度新入生は定員を上回り、近年の努力が着実に実りつつあります。大学進学についても12年ぶりに大阪大学合格者ができました。また、難関私大では早稲田3名、上智5名、MARCH2名、関関同立27名が合格しています。

施設設備

附属姫路高校創立50周年を記念し、昨年8月に着工した新校舎棟の第1期新築工事は、本年7月末の竣工を目指し、順調に進めています。5月中旬には5階建ての躯体がほぼ出来上がり、その全景が現れます。

また、工事の進捗に併せて最新のインフラや設備関係、内装の仕様等を策定しています。



東洋大学附属牛久高等学校
校長 遠藤 隆二

建学の精神に則り
創立 50 周年を期に大きく羽ばたく教育の展開

本校は、東洋大学の創立者・井上円了博士の建学の精神「護国愛理・知徳兼全・独立自活・諸学の基礎は哲学にあり」を基本理念とし、深く考える力と本質に迫る健全な批判精神を培い、将来社会に貢献できる有意な人材の育成に努めています。本校が創立 50 周年を期に「大きく羽ばたける」よう、「学力を向上させ、生徒の進路希望を実現させる。魅力ある教育活動を展開し、地域社会に貢献する。人権尊重の精神を基にした人間教育を充実させる。」の 3 点を教育方針とし、全教職員が力を合わせ、揺るぎない教育活動を展開しています。



〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 1360 - 2

Tel 029(872)0350 Fax 029(874)1055

URL: <http://www.toyo.ac.jp/ushiku/>

教育活動

【目指す学校像】「目指す学校像」と「育てたい生徒像」を設定し、その具現化に向けて教育活動を展開しています。

人間教育に力を入れ、基礎基本を徹底している学校
変化の激しい社会を逞しく生きる力を育成する学校
個性・能力を伸長させ、進路希望を実現する学校
切磋琢磨し、認め合い支え合う愛校心の強い学校
魅力ある教育活動を行い、地域社会に貢献する学校

【校内研修会の充実】目指す学校像」を具現化するため、求められている学校像と教師像 授業改善と授業力向上 HR 指導と教育活動 カウンセリングマインドを生かした指導 裁判事例を通じた体罰・いじめ問題の対応 3 年間の教育計画などのテーマで研修を実施し、講師を含め全教職員の意識改善と資質向上に努めています。

【進路指導の充実】進路部の作成した進路指導計画に従い、学年及び HR 担任がそれぞれ指導計画を作成して実施する仕組みを整え、1 年では三者面談、キャリア講演会など、2 年ではコラム要約、小論文作成等のコミュニケーション能力の育成など、3 年では英語検定、TOEIC Bridge、指定校推薦者のセンター試験の全員受験などを実施しました。

【確かな学力の向上】本校生徒の現状分析を行い、授業時間の確保と日常の教育活動の見直し改善等を行うとともに、教科会を充実させ、研究授業を実施し指導力の向上に努めています。また、朝の読書や家庭学習などを励行させ、基礎学力の定着を図るようにしています。

【国際理解教育の推進】国の絆プロジェクトに積極的に参加し、8 月には中国に 40 名、11 月と 1 月にはアメリカ合衆国に 48 名と 24 名、2 月にはシンガポールに 14 名を派遣し交流しました。3 月には本校の語学研修としてオーストラリアのカノボラス高校に 16 名を派遣して語学研修はもちろん、体験授業や文化交流を行いました。また、11 月にモン

ゴルの高校生 90 名、3 月には 46 名のアメリカ合衆国の高校生を受け入れ、特別授業や東日本大震災に関するシンポジウムなど様々な文化交流を行いました。

【課外教育・部活動】軟式野球部、女子テニス部、空手道部が茨城県で優勝しました。陸上競技、女子テニス・ソフトテニス、パレー、軟式野球、相撲の各部が茨城県体育協会の強化事業部に指定され、活躍しています。

大学との連携の充実

5 月に実施した 1 年生対象の白山キャンパスでの大学見学会は、大学の先生による模擬授業（講演会）本校 OB 大学生の体験談・講話、キャンパス内見学と充実した内容になっています。これは附属校生であるとの自覚を高め、早い時期に東洋大学を意識することで将来の目標設定に大きく寄与しています。また、「現代学生百人一首」「井上円了が志したものは」と等の大学主催のコンテストに積極的に参加し成果を上げています。さらに、経済学部等と PC による事前問題演習を実施し、基礎力を確実にすると同時に、大学生としての意識を高めるよい刺激となっています。

3 月に実施された生命科学研究科主催のシンポジウムに本校の科学同好会がポスター（英文）発表に参加するとともに、知的交流会では東日本大震災に関するプレゼンを英語でする等大学の研究活動にも積極的に参加しました。

PTA 支部のほとんどが企画する大学キャンパス見学では、「将来自分の子供たちがどういう教育環境で学ぶのか」を実際に体験でき、多くの保護者が参加しています。

施設設備

創立 50 周年事業として施設設備の充実を計画中です。



京北高等学校
校長 石坂 康倫
建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」
に則って

本校は、東洋大学の創立者・井上円了博士の建学の精神「諸学の基礎は哲学にあり」を教育理念として継承し、教育活動を展開して今年で115年目を迎えます。

「物事の本質を深く考え、自ら判断し行動し、人を愛し人から愛され、社会に貢献できる有為な人材の育成」に努めています。教員は、常に哲学する心を持って授業に臨み、生徒一人ひとりを大切に育てることを教育目標に掲げています。

国際社会の中で「たくましさ幅広い視野」を持った社会のリーダーとなり得る人材育成のために、教職員一致団結して教育活動に取り組んでいます。



〒115-0053 東京都北区赤羽台 1-7-12
Tel 03(5948)9113 Fax 03(5948)9117
URL: <http://www.toyo.ac.jp/keihoku-hs/>

教育活動

【新生京北を創造する「Kプロジェクト」】

将来の進路そして個々人の能力や役割を見つける大切な高校時代、自然豊かな東洋大学赤羽台キャンパスに於いて、安心して自分探しに集中できる環境を整備し、その中で学習習慣の獲得・学習方法の会得を目指す教育を実践しています。新生京北の教育プログラムは、自学自習に向かうプロセスを追った精選されたシラバスとカリキュラムに加え、最新の教育システムも有効に活用して、生徒たちの可能性を伸ばすための教育「Kプロジェクト5」を着実にを行っています。

Project 1 グローバル社会に適応した教育の実施
英語だけに偏らない、総合的学力を背景としたコミュニケーション能力の育成を目指しています。「国際力」の原点は日本文化を発信できる能力と位置づけ、語学力プラス一般常識、そして実技科目や芸術にも真摯に向き合わせ感性溢れる学習を心がけています。

Project 2 大学進学実績の躍進
難関大学への進路実現を可能にする新しい教育システムで、「授業・講習・補習」を合わせると年間学習時間は1000時間超となります。またチューター制をとり入れたWeb学習は、生徒一人ひとりがIDとパスワードを持ち、学校でも自宅でもいつでも自由に勉強できる画期的な学習システムです。授業の予習・復習に連動しているだけでなく、大学受験の予備校講座や英検対策講座も学習できます。

Project 3 高大連携の教育

大学生活の先取りを体感できる「学部訪問」「学部ライブ」、そして留学生との交流プログラム「Let's Chat」などを行事化しています。東洋大学の総合スポーツセンターを利用した部活も好評で、50mの温水プールは高校では味わえない醍醐味があります。

Project 4 キャリア教育の体系的実施

自分力・社会力・人間力の育成を土台として、「人間関係形成能力」「意思決定能力」「情報活用能力」「将来設計能力」の4能力の獲得を目指しています。

Project 5 文武両道教育の実施

全国大会常連の部活動から仲間との関わりの中で社会力を育む楽しい部活動まで、多種多様な部活動を配置しています。ボランティアの芽も育てています。

安心・安全な学校への取り組み

教育内容はもちろんですが、生徒や保護者にとって一番大切なことは安心して学校に通えることだと確信しています。人と人との絆を大切にしたい温かみのある教育環境、そして東日本大震災の教訓を生かしての危機管理体制など、あらゆる意味で「安全な学校」作りに取り組んでいます。

進路の状況

2012年度の卒業生は157名です。大学合格者数は、早稲田1、東京理科3、青山3、立教5、明治4、中央3、法政3、学習院3、成城1、明治学院2等の合格者数を出しています。なお、東洋大学には16名、日本大学には13名が合格しています。



京北中学校
校長 石坂 康倫

建学の精神を今に引き継ぎ、社会の発展に寄与する学校づくり

法人合併に伴い、学校法人東洋大学の設置校となった本校は、赤羽台に教育の場を移し、新しい学校づくりをはじめました。

入試基準の見直しにより、これまでよりも高い学力をもつ生徒を受け入れ、中高一貫特進コースを設置しました。新しい京北中学校のスタートでもあります。

教育活動全般の見直しを進めるなかで、京北中学校の教育の質を向上させ、生徒達の成長に資する学校にしていきます。

そして、2015年度には文京区の地に本移転し、新しい環境の下に、男女共学普通科の中高一貫教育校として生まれ変わる予定です。



〒115-0053 東京都北区赤羽台 1-7-12

Tel 03(5948)9112 Fax 03(5948)9116

URL: <http://www.toyo.ac.jp/keihoku-jh/>

教育活動

【学習指導】国語の授業を「文法」と「読解」の二分野に分け、それぞれ授業と考査を行うなど、学習効率を高めるため授業構成を変更しました。また、前年に続き補習講習システム「ASP(アフタースクールプログラム)」の整備をはかりました。これは基礎学力の定着が不十分な生徒のフォローアップをはかるとともに、学習に取り組む姿勢を育てるのに有効でした。次年度には、特進コース一期生が3年生になります。高校との接続を上手にはかり、実質のある6カ年一貫教育の構築をはかっていきます。

【進路指導】進学指導検討会を初めて試験的に実施しました。実力テストの結果を分析し、今後の指導計画に役立てていきます。来年度より、中高全学年で実施する予定です。

【生徒指導】昨年度に続き、他者との関係性のなかで、自尊感情を育てることを目標に取り組みました。PA(プロジェクトアドベンチャー)プログラムを導入し、課題解決を通して人間関係の向上を目指しました。このほかにも、地域清掃活動への参加など、社会のなかでの自分の果たすべき役割を自覚する活動に取り組みました。今後も、「問題行動がおきてからの対応」ではなく、「予防的な観点からの指導」に取り組んでいきます。

【課外活動】部活動では、剣道部が東日本大会でベスト8、都大会で優勝などの輝かしい実績を上げました。また、バスケットボール部も強豪校として活躍しています。

【学校安全対策】6月に実施している「防災の日」の

活動をさらに充実させました。今年度は、PC教室を使っの帰宅経路確認、近隣避難場所までの実践に加え、赤羽消防署の協力の下、D級簡易ポンプ・消火器を使用しての消火訓練、煙が充満した部屋からの脱出訓練を行いました。また、1号館1階に備蓄倉庫が増設され、食料等備蓄品を充実させました。

【異文化体験旅行】7、8月に京北三校合同企画「異文化体験旅行(オーストラリア)」が実施されました。「ひと家庭にひとりステイ」という方針の下、異文化理解のためのプログラムに取り組みました

大学との連携の充実

中学校3学年では、今年度で12年目となる「川越キャンパス訪問」を実施しました。3グループに分かれ、それぞれ実験室を訪ねました。大学教育の実際を見て、理科の学習を頑張る生徒が多数でできました。また、6月には「板倉キャンパス訪問」を新設しました。

施設設備

赤羽台校地3号館は、日当たりも良く、緑深い落ち着いた環境にあります。生徒・保護者からも好評を得ています。



京北学園白山高等学校
校長 石坂 康倫

21世紀の教育は白山から

明治の哲学者で東洋大学の創立者でもある井上円了博士によって1898年に京北学園が創設され、1908年に京北実業学校が創立されました。京北実業学校は京北商業学校を経てさらに21世紀にふさわしい新しい教育を目指して2002年京北学園白山高校と校名を変更し、「21世紀の教育は白山から」と新しい教育に挑戦し続けています。さらに2011年4月には学校法人東洋大学と合併して、東洋大学で中核となって活躍できる人材の育成を心掛けています。



〒115-0053 東京都北区赤羽台1-7-12
Tel 03(5948)9111 Fax 03(5948)9115
URL: <http://www.toyo.ac.jp/hakusan-hs/>

教育活動

【探究型学習 プロジェクト・ベース学習 1年】

生徒が積極的に参加できる授業の構築を目指した新しい教育の一つで、アメリカのチャータースクールで実施されている学習方法を取り入れています。具体的には自らテーマとゴールを定め、その追究のプロセスを体験学習や問題解決学習によって構成し、プレゼンします（毎年、公開授業「白山プレゼンター」）。生徒の意欲を高める授業を進めています。

【課題研究 2・3年】

1年次のプロジェクト・ベース学習の発展として、2、3年次に課題研究に取り組んでいます。1年生で学んだレポートの書き方やインターネットを活用した調査、図書館での資料の調達方法などについての学習をさらに発展させていきます。商業科はもちろん、国語科・地歴科・英語科など各分野からひとつの課題に対してアプローチをし、総合的な問題解決能力を育成しています。

【情報教育】

情報社会のなかで起こる社会問題と可能性を踏まえ、著作権や知的所有権、プライバシー保護、セキュリティ管理など社会的なルールの在り方や動向について学びます。また私たちの社会の在り方や倫理的な問題も研究しています。最新のパソコン教室があり、充実した環境の中でスキルを高めています。

【表現教育】

自ら学ぶ意欲や、自分を大切にする自尊感情の育成は、何事にも通じる大事な能力です。

表現教育では、授業を通して教師も生徒も自分らしい持ち味が出せるよう、一方的ではなく、生徒の「今」と教師の「今」が絡み合う人間関係の中で、自ら考え、表現する能力を養っています。

【資格取得】

簿記検定・情報処理検定・英語検定・漢字検定・数学検定などの検定にチャレンジしています。毎年各教科・各学年で目標を定め、合格に向けて取り組んでいます。放課後や長期休暇中にも各検定の講習を実施し、全力でサポートしています。

【土曜授業とキャリア教育】

土曜日は、「一般授業」の他に、キャリアアップのための進路ガイダンス、進路講演会、実力テストなど「特別授業」も行っています。毎年、四年制大学に6~7割の生徒が進学しています。

【朝学習】

1年から3年まで国語・数学・英語の3教科で朝学習を行っています。

大学との連携の充実

1年生が白山での「オープンキャンパス」に参加しています。また、「井上円了作文コンクール」や生命科学部主催の「私が考える食育作文コンテスト」に応募しています。

【Let's Chat!】

土曜日の午後、東洋大学で学ぶ留学生と本校の生徒が交流しています。授業とは違ってテキストのない、フリーの英会話です。



京北幼稚園
園長 清澤 文彌太

成長段階に適応した遊びと自主性を育成していくことを目指します。

幼児期には、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の領域をバランスよく身に付け伸ばすことが求められています。人間形成の基礎をつくる最も貴重な幼時期に、同年齢の幼児が成長段階に適応した遊びを中心とした生活を通して、身の周りの物事に興味や関心を示し、自分でやってみようとする行いや自主性を育成していくことを目指します。

また、集団での諸活動の中で個々がさまざまな体験をしながら社会性を身につけ、思考力や表現力を会得し、豊かな心を育むための知・徳・体のバランスのとれた成長を促す保育を目指しています。



〒115-0053 東京都文京区本駒込 2-13-5
Tel 03(3941)7090 Fax 03(3941)7213

URL: <http://www.toyo.ac.jp/keihoku-kdg/>

保育活動

【保育の展開】

本園がめざす保育を根底に、自由な活動とクラスでまとまって行う活動の組合せによる保育を続けています。各クラスとも成長段階にふさわしい年間・学期・月間・週間のカリキュラム（指導目標）を設定して、ステップバイステップを基本に取り組みました。

2012年度は、各年齢1クラス編成で、年少は35名、年中は35名、年長は36名、合計106名が在籍して、3月には年長36名が卒園しました。

文京区内の私立幼稚園の中では中規模の幼稚園で、各クラス主・副担任の2名制で、保育準備から保育活動の分担、毎日の反省など主・副担任間で十分な話し合いを行ったうえで展開しています。園全般の教務および各クラス担任へのアドバイスや指導は主任が担当し、園の運営、施設管理などは、園長、主任を中心に法人と相談、助言を受けて実施しています。

【本園を取り巻く環境】

閑静な住宅地の中にあり、園舎内は採光をふんだんに取り入れ、木材を随所に使用して木のぬくもりに安全性を加味することによって、園児が安心して過ごせるように配慮してあります。また、保育室内のインテリアや装飾も教員の自作で、心休まる暖かな雰囲気をつくれるよう努めています。

【大学との連携の充実】

今年度はライフデザイン学部生活支援学科子ども支援学専攻の3年生に対して、幼稚園の様子と実習

に向けての注意事項の講義を主任が行った。

また、学生達が制作した人形劇を園で上演し学生と園児の交流をはかりました。

【研修の充実】

教員の研修活動への取り組みは、園児の夏休み中には教員各自の関心のある研修に参加をし、報告書の提出を義務づけています。また、第3保育期中には、文京区私立幼稚園連合会主催の研修会に教員全員で参加をしました。これを通して常に保育内容や技術のレベルアップを心掛けており、全力投球の保育に対して保護者の方々から厚い信頼を得ています。

園の運営

法人合併により昨年度から学校法人東洋大学の設置する幼稚園となり、管理運営に関しては、法人の担当部署と綿密な連絡を取り幼稚園の運営に遅滞がないように努めました。

保育に関しては、経営母体が変わっても教員の経験と保護者の要望を生かした保育を展開しています。

施設設備

設備、器具の老朽化が著しい物については法人に要請して更新や新設を行いました。

具体的には、年少組保育室の手洗い場の改善、園庭側の老朽化した手すりの改修、ホールに大型スクリーン、玄関の扉にオートロックの設置、園児用各種備品の更新などを行いました。

格付の取得

学校法人東洋大学は、2013年1月16日に、株式会社日本格付研究所(JCR)より、5年間連続で長期発行体格付の「AA」(ダブルAフラット)の格付を取得し、また格付の見直しは、「安定的」とされました。

「AA」は、20段階ある格付の上から3番目であり、債務履行の確実性が非常に高いとされているもので、格付事由として、安定した志願動向や過年度の学費改定効果などを受けて、学納金を中心とする帰属収入は底堅く推移している、白山地域への集約化と特色ある郊外の学部展開、一定水準の帰属収入の確保、安定した帰属収支差額や充実した運用可能資産による良好な財政基盤の維持、などが挙げられています。

「AA」の評価は、学校法人の信用力、健全な財務体質及び大学の教育・研究・社会貢献への取り組みが評価されたもの、と考えておりますが、本法人は、この格付に安住することなく、創立125周年を機会に、今後とも、良質な教育の提供、先進的かつ高度な研究の推進、知的成果の社会への還元を通じて、大学の社会的責任を果たして行きます。

創立125周年記念祭典

ホームカミングデー

2012年11月23日、白山キャンパスにて創立125周年記念祭典・第15回ホームカミングデーが行われ、約1,100名の参加者が集いました。



今年は大学が125周年ということで、卒業生だけでなく、在学生・教職員・近隣の方も含めて125周年を祝うという趣旨から125周年記念祭典として例年の講演会と懇親会に加えて学生参加による展示企画や記念コンサートなども併せて開催しました。

川越キャンパスホームカミングデー

2012年6月23日、川越キャンパスホームカミングデー・連合育成会大会が開催され、多くの卒業生が集いました。

この催しは東洋大学創立125周年記念の一環とし

て行われたものです。大学主催のホームカミングデーは白山キャンパスで毎年開催されていますが、川越キャンパスで学んだ卒業生の方々に、川越



版ホームカミングデーとして、川越キャンパスを見ていただき、在校生と交流する機会の場合としてこのホームカミングデーが開催されました。

ホームカミングデーin 板倉 国際地域学部・生命科学部合同「板倉大同窓会」

2012年12月15日板倉キャンパスにおいて、ホームカミングデーin 板倉「板倉大同窓会」を開催しました。



この「板倉大同窓会」は本学創立125周年を迎えた本年、周年記念事業の一環として国際地域学部・生命科学部合同での初めての開催となり、1997年開設の板倉キャンパスから巣立った卒業生とその家族、教職員約450名が集いました。

災害等への備え

白山キャンパス総合防災訓練



2012年6月29日、白山キャンパスにて総合防災訓練を実施しました(参加者約380名)。

今回の訓練は、震度6強以上の地震発生を想定し行われました。午前11時50分、地震発生を知らせる校内放送が流れた後、緊急対策本部と自衛消防隊本部が設置され、白山キャンパス職員・警備員で組織する自衛消防隊を中心に、地震発生時の初動対応、避難誘導などのシミュレーションを行いました。

本学では引き続き、随時、各キャンパスにて防災訓練を行い、非常時における迅速な対応および被害の軽減を図るよう、防災力の向上に努めていきます。

緊急情報の伝達

東洋大学では、2012年7月17日よりTwitter（ツイッター）の運用を開始しました。

Twitterを利用することで、本学学生や保護者の皆様、および教職員に対し、「緊急情報」の伝達を正確かつ迅速に配信することを目的としています。

<東洋大学公式 Twitter >
アカウント Toyo_Uni
【名称】東洋大学（公式）/ Toyo University Official
【URL】https://twitter.com/Toyo_Uni
掲載内容
当面は「大学全体に関わる緊急情報（ ）の速報告知」に限り、運用します。
「緊急情報」は以下のように暫定的に定義します。
自然災害（地震、風水害、火災、異常気象、伝染病等）、社会インフラの機能停止（大規模停電、通信障害等）、テロ行為（予告、脅迫、破壊行為等）、対企業犯罪（サイバー・テロ、反社会的勢力の介入、学生・教職員の誘拐等）等（以下、災害等という）の発生時および発生するおそれが生じた際の全学的対応の必要が認められること
基本運営時間 緊急事態発生時は随時

東洋大学サバイバルカード

「東洋大学サバイバルカード」は、大規模地震に対応した携帯用の防災マニュアルで、学生に配布しています。地震・災害時に取るべき行動や判断基準が具体的に記されているものです。

防災備蓄

各キャンパスでは、防災備蓄品の管理に努めています。非常時に帰宅困難となった学生のための飲料水、食糧のほか、簡易トイレや簡易寝袋等を備蓄しています。

イーバックチェア（階段避難車）

高層建物が存在する白山キャンパスには、イーバックチェアを設置しています。イーバックチェアは、地震、火災、エレベーター等が使用出来ない状況において歩行困難な方を迅速、安全かつ容易に、階段から階段へと避難させることができる避難器具です。また、平坦なフロアに到達した後は補助輪をおろすことにより、乗り換えることなく車椅子と同じように、迅速、安全に搬送ができます。

教育環境の整備

白山キャンパスの整備

白山キャンパスにおいて、情報環境の学生サービス向上を目指し、また、白山第2キャンパスから白

山キャンパスへの移転に伴う学生数増に対応するため、125周年記念館竣工後に既存校舎改修（図書館拡張、3・5号館事務室を教室へ改修）を行い、あわせて、情報関連設備（PC）の整備を行いました。

川越キャンパスの整備

川越キャンパスに、バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟および体育会川越合宿所D棟・E棟を建設しました。

バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟（BNC）は既存の建物に加え、新築工事となり、国際産学連携先端教育研究の拠点として、さらに大学院教育のより一層の強化を目的としています。

<バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟概要>
敷地面積 : 273,996.61 m²
建築面積 : 1,078.48 m²
延べ面積 : 3,544.46 m²
構造 : 鉄筋コンクリート造 地上4階
施設概要 : 各種実験室、事務室等

また、体育会川越合宿所D棟（ラグビー部食堂・浴室棟）・E棟（陸上競技部合宿所）においては、学生スポーツを施設面から整備し、拡充を図りました。

<体育会川越合宿所D棟・E棟概要>
敷地面積 : 273,996.61 m²
建築面積 : D棟 151.70 m²/E棟 992.03 m²
延べ面積 : D棟 240.20 m²/E棟 2,539.01 m²
構造 : D棟 鉄筋コンクリート造 2階
E棟 鉄筋コンクリート造 4階
施設概要 : D棟 食堂、浴室
E棟 監督室、受付、トレーニングルーム、食堂、寮室、浴室等

合宿所の整備

板倉キャンパスに、女子サッカー部合宿所を建設しました。この合宿所の完成に伴い、2013年4月からは本学体育会サッカー部女子部の活動が本格的にスタートし、板倉キャンパスサッカーグラウンドでも多くの公式戦が開催される予定です。

業務改革・業務環境改善

業務の平準化や効率化といったことを念頭に、各種データについては、発生源での入力・管理の徹底を前提とした業務の簡素化とペーパーレス化を図っています。すでに導入済みの新入試システム、卒業生管理システム、新人事システムに続き、2012年度においては、新会計システム、出張管理システム、e購買システム、新学務システムを導入し、業務改革、経費削減を図っています。

貸借対照表の状況

【資産の状況】

2012年度末の資産総額は、2,106億5,800万円で前年度末に比べ100億900万円増加しました。特に、有形固定資産は、白山キャンパスに125周年記念館を、川越キャンパスにバイオ・ナノエレクトロニクス研究センター棟、体育会川越合宿所D棟(ラグビー部食堂・浴室棟)、体育会川越合宿所E棟(陸上競技部合宿所)を、板倉キャンパスにサッカー部女子部門合宿所を建築したことや、教育・研究のための機器備品や図書の購入および公用車の購入などにより大幅に増加しました。その他の固定資産は、創立125周年記念館建築に伴い創立125周年施設設備引当特定資産を12億円、附属姫路高等学校で創立50周年記念校舎(仮称)建築に伴い校舎建設準備引当特定預金を4億円、それぞれ取り崩しましたが、大学で将来計画施設設備引当特定資産として30億円を、第3号基本金(奨学基金)引当特定資産に20億円をそれぞれ繰り入れていることなどにより31億7,300万円増加して、384億9,100万円となりました。流動資産は現金預金が7億2,500万円増加したことなどにより301億1,900円となりました。

【負債の状況】

負債総額は206億9,200万円で前年度末に比べ23億1,400万円増加しました。このうち、21億3,100万円が建物建築や既存校舎改修工事、機器備品取得をはじめとする未払金で、流動負債としても短期借入金などが減少

したものの24億8,700万円増加し117億8,500万円となりました。一方、固定負債は長期借入金と退職給与引当金が1億7,300万円減少し、89億700万円となりました。

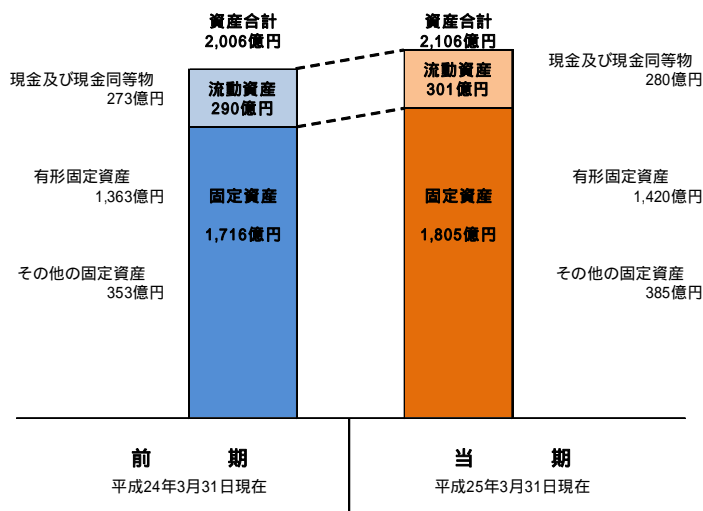
【基本金の状況】

基本金は106億7,200万円増加して2,236億3,100万円となりました。このうち、第1号基本金は建物建築や機器備品などの施設設備充実と借入金返済などにより71億5,200万円増加して2,033億2,800万円となり、第2号基本金は大学において12億円を、附属高校で4億円を第1号基本金に振り替えた一方、将来の校舎等施設・設備の整備充実準備として30億円を組み入れたことや附属牛久高等学校で校舎建設準備として1億2,000万円増加したことにより94億6,000万円となりました。さらに第3号基本金は基金の運用果実を新たな奨学金の資金とするため20億円増加し88億1,000万円となりました。

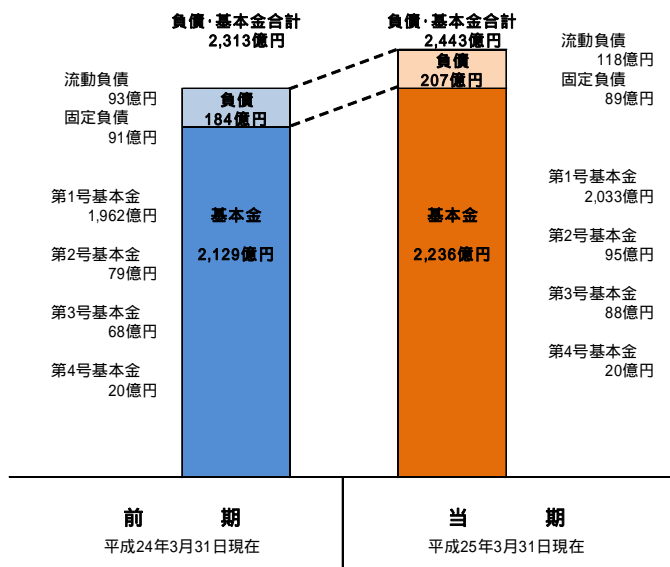
【消費収支差額の状況】

資産総額2,106億5,800万円に対して、負債総額が206億9,200万円に、基本金が2,236億3,100万円であったため、消費収支差額はマイナス336億6,500万円となりました。なお、今年度末における減価償却累計額の合計は643億9,800万円、基本金の未組入額は22億6,200万円となっています。

資産の状況



負債・基本金の状況



収支計算書の状況

【帰属収入の状況】

当年度の帰属収入は399億4,400万円で、主な項目としては、学生生徒等納付金が前年度より1億3,900万円増加し314億2,600万円で、入学検定料などの手数料が志願者数の増加に伴い前年度より2億600万円増加し23億2,700万円で、特別寄付金や一般寄付金、現物寄付金などの寄付金は前年度より19億8,100万円減少し9億1,000万円になりました。これは前年度、京北学園との合併に伴う継分が20億円程含まれていたことによるものです。

【消費支出の状況】

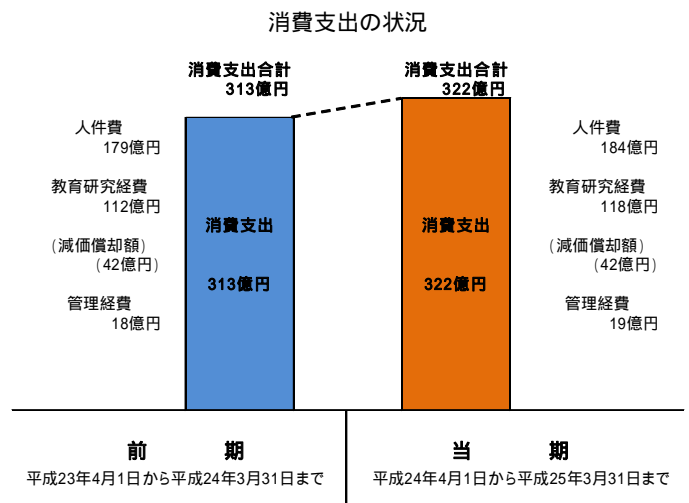
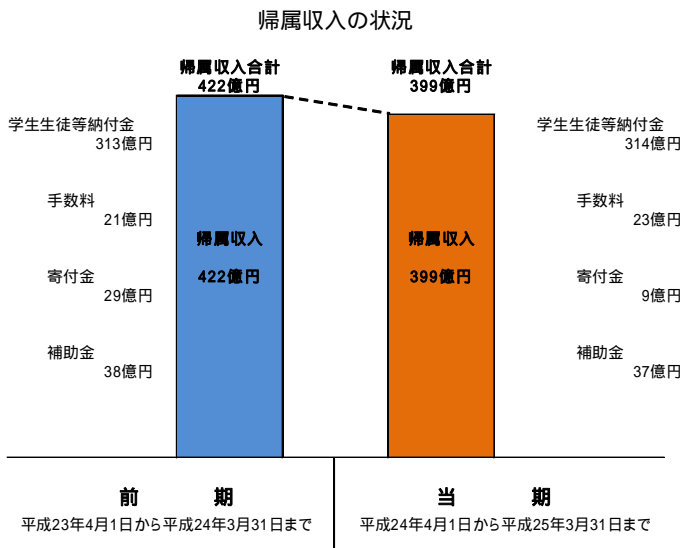
当年度の消費支出は322億4,900万円で、主な項目としては、人件費が専任教職員の採用増加や退職者の増加に伴い前年度より4億7,100万円増加し184億400万円

に、教育研究経費は創立125周年記念事業の実施などにより前年度より6億800万円増加し118億1,300万円で、管理経費も同じく4,400万円増加し18億8,000万円となっています。

なお、消費支出全体のうち41億7,300万円は減価償却によるものです。

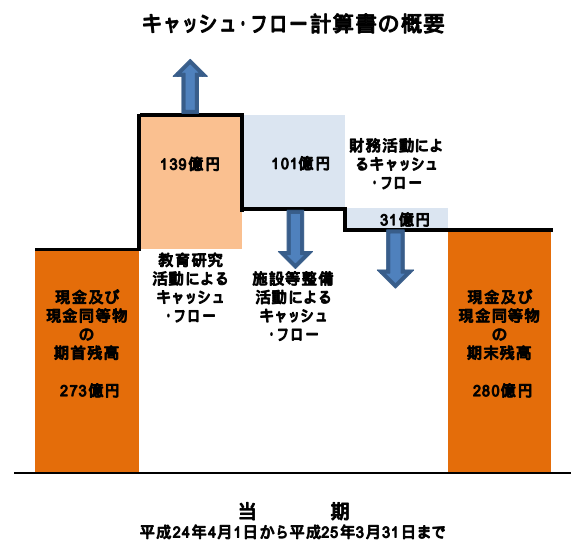
【消費収入、消費収支差額の状況】

帰属収入から基本金組入額を差し引いた消費収入の部の合計は292億7,200万円となり、消費支出が消費収入を上回った結果、29億7,700万円の消費支出超過となり、累積の翌年度繰越消費収支差額はマイナス336億6,500万円（消費支出超過）となりました。



キャッシュ・フロー計算書の概要

教育研究活動によるキャッシュ・フローは、学生生徒納付金や手数料は増加したが、寄付金や補助金、その他の収入が減少し、また人件費や教育研究経費が増加したものの、施設設備関係の完成引渡しや検収等が年度末に多く行われたことによる多額の未払金が発生したため139億円のプラスとなりました。施設等整備活動によるキャッシュ・フローは、事業計画の推進により101億円のマイナスとなり、財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済、特定資産への積み増し等で31億円のマイナスとなりました。この結果、経常収支のキャッシュで施設等整備、財務のキャッシュを賄えたこととなり、現金等の期末残高も特定資産への積み上げにより7億円増加し計画的な残高とすることができました。



(2) 経年比較

貸借対照表

(単位:百万円)

	2008年度末	2009年度末	2010年度末	2011年度末	本年度末
固定資産	147,961	153,967	162,810	171,649	180,539
流動資産	30,202	30,042	27,900	29,000	30,119
資産の部合計	178,163	184,009	190,710	200,649	210,658
固定負債	11,378	10,577	9,872	9,080	8,907
流動負債	11,668	10,497	9,457	9,298	11,785
負債の部合計	23,045	21,074	19,329	18,378	20,692
基本金の部合計	174,027	183,805	200,987	212,959	223,631
消費収支差額の部合計	18,910	20,870	29,606	30,688	33,665
負債の部、基本金の部及び 消費収支差額の部合計	178,163	184,009	190,710	200,649	210,658

収支計算書

ア) 資金収支計算書

(単位:百万円)

収入の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
学生生徒等納付金収入	28,290	30,277	30,555	31,287	31,426
手数料収入	2,280	2,374	2,236	2,121	2,327
寄付金収入	195	133	255	1,932	850
補助金収入	3,111	2,975	3,427	3,767	3,741
資産運用収入	557	500	434	425	415
資産売却収入				577	2
事業収入	243	242	277	288	282
雑収入	899	741	861	879	820
前受金収入	8,027	7,321	7,334	7,252	7,560
その他の収入	27,522	5,494	6,561	7,824	5,027
資金収入調整勘定	8,353	8,793	8,351	8,442	8,363
前年度繰越支払資金	29,723	28,508	28,637	26,185	27,280
収入の部合計	92,494	69,773	72,225	74,095	71,367

支出の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
人件費支出	16,514	16,831	17,496	18,400	18,491
教育研究経費支出	6,587	6,851	6,687	7,129	7,752
管理経費支出	1,465	1,707	1,523	1,543	1,761
借入金等利息支出	116	88	62	28	6
借入金等返済支出	770	720	879	513	113
施設関係支出	12,644	4,545	9,492	8,333	7,824
設備関係支出	1,533	2,046	1,804	1,673	2,294
資産運用支出	24,512	7,440	6,738	8,376	6,282
その他の支出	2,511	3,215	2,889	2,314	2,468
資金支出調整勘定	2,668	2,307	1,531	1,494	3,629
次年度繰越支払資金	28,508	28,637	26,185	27,280	28,005
支出の部合計	92,494	69,773	72,225	74,095	71,367

(2) 経年比較 / (3) 主な財務比率比較

イ) 消費収支計算書

(単位:百万円)

消費収入の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
学生生徒等納付金	28,290	30,277	30,555	31,287	31,426
手数料	2,280	2,374	2,236	2,121	2,327
寄付金	253	171	295	2,891	910
補助金	3,111	2,975	3,427	3,767	3,741
資産運用収入	557	500	434	425	415
資産売却差額	85	6		525	3
事業収入	243	242	277	288	282
雑収入	901	754	862	880	840
帰属収入合計	35,720	37,299	38,084	42,184	39,944
基本金組入額合計	14,308	9,985	17,182	11,972	10,672
消費収入の部合計	21,412	27,315	20,902	30,212	29,272

消費支出の部	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
人件費	16,224	16,621	17,314	17,933	18,404
教育研究経費	10,312	10,501	10,408	11,205	11,813
管理経費	1,523	1,768	1,598	1,836	1,880
借入金等利息	116	88	62	28	6
資産処分差額	173	504	255	292	145
消費支出の部合計	28,346	29,482	29,638	31,294	32,249
当年度消費収支超過額	6,934	2,167	8,736	1,082	2,977
前年度繰越消費収支超過額	16,088	18,910	20,870	29,606	30,688
基本金取崩額	4,112	207			
翌年度繰越消費収支超過額	18,910	20,870	29,606	30,688	33,665

(3) 主な財務比率比較

(単位:%)

比率名	算式	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	本年度
帰属収支差額比率	$\frac{\text{帰属収入}-\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	20.6	21.0	22.2	25.8	19.3
消費収支比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{消費収入}}$	132.4	107.9	141.8	103.6	110.2
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	79.2	81.2	80.2	74.2	78.7
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	45.4	44.6	45.5	42.5	46.1
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	28.9	28.2	27.3	26.6	29.6
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.3	4.7	4.2	4.4	4.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	258.8	286.2	295.0	311.9	255.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金 1}}$	14.9	12.9	11.3	10.1	10.9
自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金 2}}$	87.1	88.5	89.9	90.8	90.2
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.9	98.6	99.5	99.8	99.0

1 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額

2 総資金 = 負債 + 基本金 + 消費収支差額

(4) その他

有価証券の状況

1. 満期保有目的の債券で時価があるもの

(単位:千円)

	種類	簿価	時価	差額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	国債	12,837,227	13,597,105	759,878
	外国債	46,254	54,021	7,767
	小計	12,883,481	13,651,126	767,645
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	国債	711,944	705,590	6,354
	外国債	1,304,864	1,139,823	165,041
	小計	2,016,808	1,845,413	171,395
合計		14,900,289	15,496,539	596,250

2. その他の有価証券で時価があるもの

(単位:千円)

	種類	簿価	時価	差額
時価が貸借対照表 計上額を超えるもの	公社債投信	158,028	158,088	60
	外国債(仕組債)	98,420	100,770	2,350
	上場投資信託	166,681	213,000	46,319
	投資信託(公募)			0
	投資信託(私募)	314,617	453,400	138,783
	小計	737,746	925,258	187,512
時価が貸借対照表 計上額を超えないもの	公社債投信			0
	外国債(仕組債)			0
	上場投資信託	554,144	447,300	106,844
	投資信託(公募)	1,292,155	1,218,803	73,352
	投資信託(私募)			0
	小計	1,846,299	1,666,103	180,196
合計		2,584,045	2,591,361	7,316

借入金の状況

借入先	借入残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	101,520千円	3.20%	平成28(2016)年9月20日	土地
合計	101,520千円			

寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
創立125周年記念事業資金	-	809,966千円	1,980件
附属姫路高校創立50周年記念事業資金	-	8,017千円	173件
附属牛久高校創立50周年記念事業資金	-	2,701千円	127件
奨学寄附金	-	19,094千円	35件
その他の特別寄付金	-	10,361千円	10件
その他の一般寄付金	-	300千円	1件
現物寄付金	-	59,903千円	1,339件
合計		910,342千円	3,665件

補助金の状況

(単位:千円)

補助金の種類	補助金額
私立大学等経常費補助金	2,039,630
一般補助	1,586,771
特別補助	452,859
成長分野の推進と成長力強化に貢献する人材育成	25,033
社会人の組織的な受入れへの支援	58,994
大学等の国際交流の基盤整備への支援	42,375
大学院等の機能の高度化への支援	248,331
授業料減免及び学生の経済的支援体制の充実	73,750
東日本大震災に係る支援	4,376
国際化拠点整備事業費補助金(グローバル人材育成推進事業)	73,930
私立学校施設整備費補助金・私立大学等研究設備整備費等補助金	278,995
私立大学教育研究活性化設備整備費補助金	48,324
科学技術戦略推進費補助金	5,400
その他の補助金	41,599
地方公共団体等からの補助金	1,251,499
学術研究振興資金からの補助金	1,400
合 計	3,740,777

関連当事者等との取引の状況

ア) 関連当事者

関連当事者との取引については、記載すべきものではありません。

イ) 出資会社

会社等の名称	事業内容	資本金等	出資割合	取引の内容	保証債務等
株式会社 キャンパスサービス	建物の警備・清掃・ 保守・管理	10,000千円	100%	清掃・警備・設備 保守業務の委託 年間 1,356,517千円	債務保証なし

学校法人東洋大学の沿革



カント



孔子



釈迦



ソクラテス

四 聖

創立者井上円了は、古今東西の哲学者、釈迦、孔子、ソクラテス、カントを祀り「四聖」と定めた。今でも「四聖」は、東洋大学のシンボルとなっている。

- 明治 20 (1887) 年 9 月 井上円了が本郷竜岡町の麟祥院に私立哲学館を創立
- 明治 32 (1899) 年 4 月 私立京北尋常中学校開設
- 明治 36 (1903) 年 10 月 私立哲学館大学と改称し、専門学校令により大学部・専門部を設置
- 明治 38 (1905) 年 5 月 京北幼稚園開園
- 明治 39 (1906) 年 6 月 私立東洋大学と改称、同年 7 月、財団法人私立東洋大学となる
- 明治 41 (1908) 年 4 月 私立京北実業学校開設
- 大正 9 (1920) 年 1 月 私立京北中学校、私立京北実業学校の「私立」の冠称を廃止
 - 3 月 私立東洋大学の「私立」の冠称を廃止
- 昭和 3 (1928) 年 3 月 大学令による東洋大学の設置を認可される
- 昭和 23 (1948) 年 4 月 学制改革により、京北中学校、京北高等学校、京北実業高等学校となる
- 昭和 24 (1949) 年 4 月 学校教育法により新制大学への移行
 - 文学部第 1 部設置 (第 2 部は昭和 27 年)
- 昭和 25 (1950) 年 4 月 経済学部第 1 部 (第 2 部は昭和 32 年)、短期大学部第 2 部設置、京北高等学校・京北実業高等学校を合併し、京北高等学校普通科・商業科となる
- 昭和 26 (1951) 年 3 月 私立学校法により財団法人私立東洋大学から学校法人東洋大学へ組織変更
- 昭和 27 (1952) 年 4 月 大学院文学研究科設置
- 昭和 28 (1953) 年 2 月 京北高等学校普通科・商業科を京北高等学校・京北商業高等学校とする
- 昭和 31 (1956) 年 4 月 法学部第 1・2 部設置
- 昭和 34 (1959) 年 4 月 社会学部第 1・2 部、大学院社会学研究科設置
- 昭和 36 (1961) 年 4 月 川越キャンパス開設、工学部設置
- 昭和 38 (1963) 年 4 月 附属姫路高等学校、附属南部高等学校開設、短期大学部第 1 部設置
- 昭和 39 (1964) 年 4 月 附属牛久高等学校開設、通信教育部、大学院法学研究科設置
- 昭和 40 (1965) 年 4 月 大学院工学研究科設置
- 昭和 41 (1966) 年 1 月 東洋大学短期大学部を東洋大学短期大学に改称
 - 4 月 経営学部第 1・2 部設置
- 昭和 47 (1972) 年 4 月 大学院経営学研究科設置
- 昭和 51 (1976) 年 4 月 大学院経済学研究科設置
- 昭和 52 (1977) 年 3 月 附属南部高等学校閉校
 - 4 月 朝霞キャンパス開設
- 昭和 62 (1987) 年 10 月 東洋大学創立 100 周年記念式典を挙げる
- 平成 2 (1990) 年 4 月 井上円了記念学術センターを設置
- 平成 9 (1997) 年 4 月 板倉キャンパス開設、国際地域学部、生命科学部設置
- 平成 13 (2001) 年 4 月 大学院国際地域学研究科、大学院生命科学研究科設置
- 平成 14 (2002) 年 3 月 東洋大学短期大学閉校
 - 4 月 京北商業高等学校を京北学園白山高等学校に改称
- 平成 16 (2004) 年 4 月 専門職大学院法務研究科 (法科大学院) 設置
- 平成 17 (2005) 年 4 月 ライフデザイン学部設置
 - 11 月 白山第 2 キャンパス開設
- 平成 18 (2006) 年 4 月 大手町サテライト開設、大学院福祉社会デザイン研究科設置
- 平成 19 (2007) 年 4 月 大学院学際・融合科学研究科設置
- 平成 21 (2009) 年 4 月 工学部を再編し、理工学部を設置
 - 総合情報学部設置
- 平成 23 (2011) 年 4 月 学校法人京北学園を法人合併 (京北高等学校、京北中学校、京北学園白山高等学校、京北幼稚園が併設校となる) 総合スポーツセンター開設
- 平成 24 (2012) 年 11 月 東洋大学創立 125 周年記念式典を挙げる

役員等の概況 / キャンパスの概要

役員等の概況 平成25年3月31日現在

総 長	塩川正十郎										
理 事 長	福川伸次										
常務理事	大熊廣一	田淵順一	松尾友矩								
常勤理事	神林新										
理 事	安斎隆	金子光一	金子律子	熊谷一雄	熊田裕之	小島正稔	竹村牧男	寺田信幸	戸田俊太郎		
	中村平	針替淳行	半田久米夫	廣瀬和喜	藤田耕三	森政春	森田重則				
監 事	安藤昌弘	清野直志	田中哲夫	油井貫行							
評 議 員	青木辰司	旭貴朗	阿部利雄	安藤良顕	飯塚和夫	石坂康倫	石水 勲	泉山 元	今成 昭		
	井村睦昭	遠藤隆二	大熊廣一	大場善次郎	大山隆玄	岡田 裕	小川芳樹	奥野正晴	小澤 孝		
	加藤建二	金子光一	金子律子	川合善明	菊田廣文	喜成清重	木村 睦	窪園 隆	栗原 実		
	小島正稔	後藤邦春	小林恒夫	坂本 健	櫻本正樹	佐々木啓介	清水哲雄	鈴木貞一郎	関 賢二		
	關昭太郎	高橋一嘉	高橋儀平	田口裕也	塚本正進	津田正臣	寺田信幸	戸田俊太郎	富岡勝則		
	中村平	中山尚夫	成澤廣修	西村信二	根本安男	橋本達明	橋本俊雄	花川與惣太	半田久米夫		
	福川伸次	藤井敏信	藤田耕三	藤本典裕	古澤篤輔	松永安彦	森 政春	吉田泰彦			
名誉顧問	井上民雄										
顧 問	小林陽太郎 根津嘉澄										
顧問(学術研究)	掘越弘毅 山口・カトー 菅野卓雄 ドナルド・キン										

教職員の概況 平成24年5月1日現在

東 洋 大 学	専任教員					非常勤講師	専任職員	
	教授	准教授	講師	助教	助手		職員	嘱託
	392名	170名	62名	36名	3名	1,220名	362名	59名

	専任教諭	非常勤教諭	専任職員	専任嘱託
附属姫路高等学校	62名	25名	6名	7名
附属牛久高等学校	75名	32名	6名	4名
京北高等学校	20名	19名	7名	2名
京北中学校	10名	3名		
京北学園白山高等学校	22名	8名		
京北幼稚園	6名	0名	0名	0名

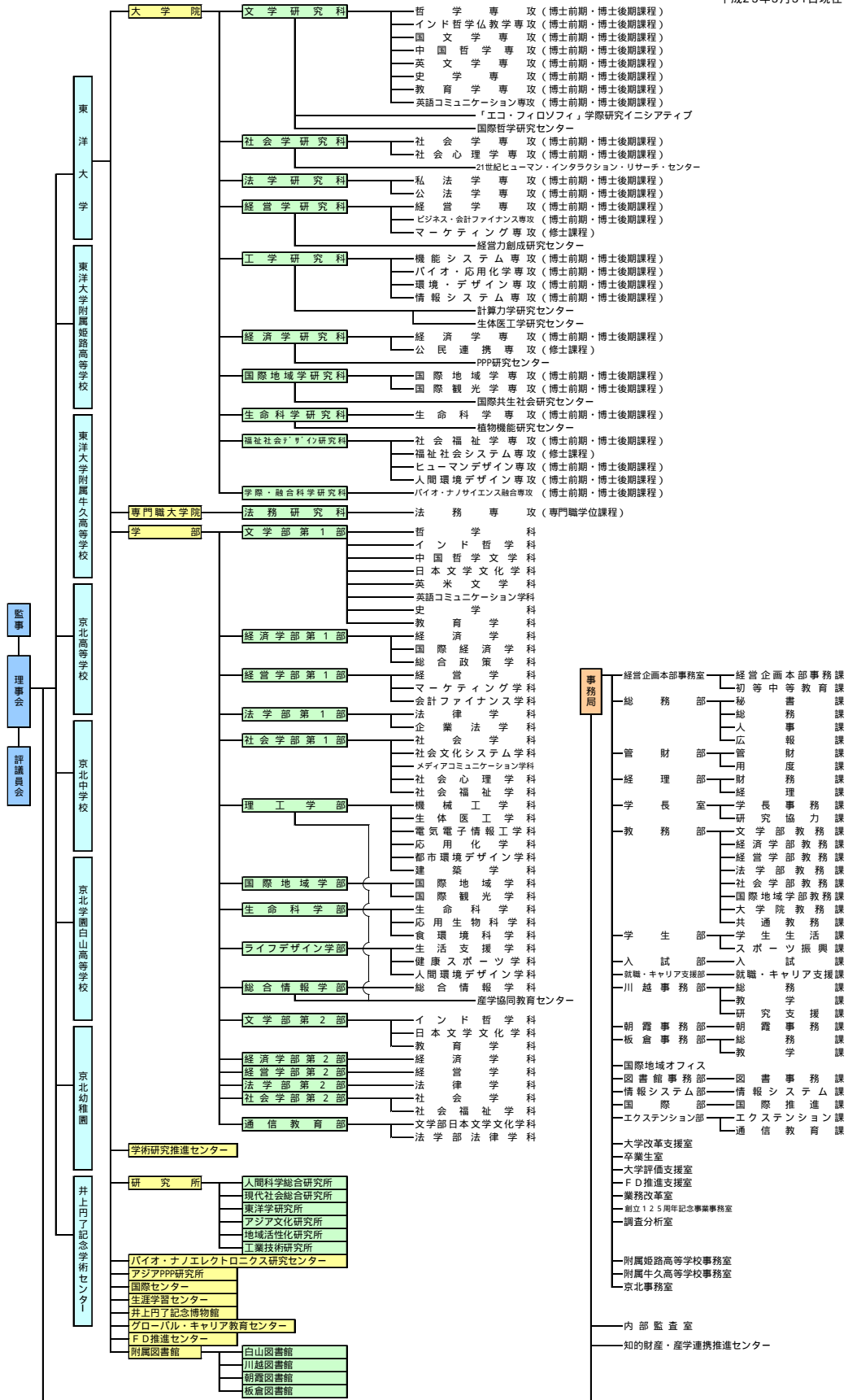
キャンパスの概要

<p>白山キャンパス</p> <p>〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20</p> <p>文学部 / 経済学部 / 経営学部 / 法学部 / 社会学部 (第1部・第2部) / 文学研究科 / 社会学研究科 / 法学研究科 / 経営学研究科 / 経済学研究科 / 福祉社会デザイン研究科 / 通信教育部</p> <p>土地 34,278.43㎡ 建物 107,121.79㎡</p>	<p>白山第2キャンパス</p> <p>〒112-0001 東京都文京区白山2-36-5</p> <p>国際地域学部 法務研究科(法科大学院) 国際地域学研究科</p> <p>土地 18,571.36㎡ 建物 19,044.18㎡</p>	<p>川越キャンパス</p> <p>〒350-8585 埼玉県川越市鯉井2100</p> <p>理工学部(工学部) 総合情報学部 工学研究科 学際・融合科学研究科</p> <p>土地 286,981.00㎡ 建物 76,302.25㎡</p>	<p>板倉キャンパス</p> <p>〒374-0193 群馬県邑楽郡板倉町泉野1-1-1</p> <p>生命科学部 生命科学研究科</p> <p>土地 331,963.00㎡ 建物 34,391.94㎡</p>
<p>朝霞キャンパス</p> <p>〒351-8510 埼玉県朝霞市岡48-1</p> <p>ライフデザイン学部 福祉社会デザイン研究科</p> <p>土地 105,246.00㎡ 建物 44,238.81㎡</p>	<p>大手町サテライト</p> <p>〒100-0004 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル1F</p> <p>経済学研究科公民連携専攻</p> <p>面積 235.22㎡(賃借)</p>	<p>附属姫路高等学校</p> <p>〒671-2201 兵庫県姫路市書写1699</p> <p>土地 106,619.79㎡ 建物 16,882.33㎡</p>	<p>附属牛久高等学校</p> <p>〒300-1211 茨城県牛久市柏田町1360-2</p> <p>土地 71,011.69㎡(借地含む) 建物 21,523.07㎡</p>
<p>赤羽台キャンパス</p> <p>〒115-0053 東京都北区赤羽台1-7-12</p> <p>土地 14,137.34㎡ 建物 8,901.55㎡</p>	<p>総合スポーツセンター</p> <p>〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1</p> <p>土地 20,706.49㎡ 建物 16,331.69㎡</p>	<p>京北幼稚園</p> <p>〒113-0021 東京都文京区本駒込2-13-5</p> <p>土地 1518.14㎡ 建物 739.39㎡</p>	

組織図

学校法人 東洋大学 組織図

平成25年3月31日現在



入学定員・収容定員・学生数

平成24年5月1日付

学部(第1部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数
文	哲	50	200	241
	インド哲	50	200	253
	中国哲学文	40	160	201
	日本文学文化	190	760	951
	英米文	120	480	569
	英語コミュニケーション	100	400	499
	史	110	440	540
	教 育	110	440	503
	(人間発達専攻)	(60)	(240)	(296)
	(初等教育専攻)	(50)	(200)	(201)
(教育学科[旧])			(6)	
計	770	3,080	3,757	
経 済	経 済	230	920	1,126
	国際経済	175	700	884
	総合政策	170	680	839
計	575	2,300	2,849	
経 営	営 営	310	1,240	1,558
	マーケティング	150	600	725
	会計ファイナンス	210	840	1,072
	計	670	2,680	3,355
法	法 律	250	1,000	1,208
	企 業 法	250	1,000	1,225
計	500	2,000	2,433	
社 会	社 会	110	440	521
	社会文化システム	110	440	548
	メディアコミュニケーション	110	440	551
	社会心理	110	440	551
	社会福祉	110	440	531
計	550	2,200	2,702	
理 工	機 械 工	150	600	721
	生体医工	100	400	467
	電気電子情報工	110	440	566
	応 用 化	120	480	628
	都市環境デザイン	80	320	409
	建 築	140	560	675
	情報工			62
(工)	コンピュータショナル工			39
機能ロボティクス			39	
計	700	2,800	3,606	
国際地域	国際地域	290	1,050	1,130
	(国際地域専攻)	(180)	(540)	(601)
	(*地域総合専攻)	(110)	(330)	(298)
	(国際地域学科[旧])	(180)	(231)	
	国際観光	200	800	975
計	490	1,850	2,105	
生 命 科	生 命 科	100	400	476
	応 用 生 物 科	100	400	472
	食 環 境 科	100	400	472
計	300	1,200	1,420	
ライフサイ	生活支援	200	800	879
	(生活支援専攻)	(100)	(400)	(480)
	(子ども支援専攻)	(100)	(400)	(390)
	(生活支援学科[旧])			(9)
	健康スポーツ	150	600	726
人間環境デザイン	150	600	700	
計	500	2,000	2,305	
総合情報	総合情報	260	1,040	1,249
第1部合計		5,315	21,150	25,781

学部(第2部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数
文	インド哲	30	130	128
	日本文学文化	80	340	337
	教 育	40	170	188
	計	150	640	653
経 済	経 済	150	610	642
	営 営	110	450	479
法	法 律	120	500	505
社 会	社 会	130	520	538
	社会福祉	45	230	175
	計	175	750	713
第2部合計		705	2,950	2,992
第1部・第2部合計		6,020	24,100	28,773

大学院

研究科名	専攻名	修士課程・博士前期課程			博士後期課程		
		入学定員	収容定員	学生数	入学定員	収容定員	学生数
文 学	哲 学	5	10	13	3	9	4
	インド哲学仏教学	4	8	13	3	9	12
	国 文 学	10	20	14	3	9	11
	中 国 哲 学	4	8	5	3	9	4
	英 文 学	5	10	4	3	9	5
	史 学	6	12	12	3	9	4
	教 育 学	20	40	9	4	12	6
	英語コミュニケーション	10	20	11	5	15	2
	計	64	128	81	27	81	48
	社 会 学	社 会 学	10	20	15	3	9
社会福祉学							7
社会心理学		12	24	10	5	15	7
計	22	44	25	8	24	27	
法 学	私 法 学	10	20	21	5	15	4
	公 法 学	10	20	21	5	15	9
計	20	40	42	10	30	13	
経 営 学	経 営 学	10	20	37	5	15	8
	ビジネス・会計・IT	20	40	24	5	15	6
	マーケティング専攻	10	20	25	3	3	0
	計	40	80	86	13	33	14
工 学	機能システム	24	48	48	6	18	6
	IT・応用化学	20	40	21	6	18	4
	環境・デザイン	18	36	38	6	18	1
	情報システム	23	46	40	6	18	3
計	85	170	147	24	72	14	
経 済 学	経 済 学	10	20	18	3	9	5
	公民連携	30	60	48			設置していない
計	40	80	66	3	9	5	
国際地域学	国際地域学	15	30	28	5	15	8
	国際観光学	10	20	15	3	6	4
計	25	50	43	8	21	12	
生命科学	生 命 科 学	15	30	49	4	12	6
	福祉社会デザイン	20	40	22	5	15	37
福祉社会デザイン	福祉社会システム	20	40	28			設置していない
	ヒューマンデザイン	20	40	21	5	15	18
	人間環境デザイン	10	20	25	4	12	2
	計	70	140	96	14	42	57
学際・融合科学	バイオ・ナノサイエンス融合	12	24	13	4	12	20
合 計		393	786	648	115	336	216

専門職大学院

研究科名	専攻名	専門職学位課程		
		入学定員	収容定員	学生数
法 務 法	法 務	40	120	37
合 計		40	120	37

通信教育部

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数
文	日本文学文化	1,000	4,000	796
法	法 律	1,000	4,000	300
合 計		2,000	8,000	1,096

附属高等学校等

高等学校名	入学定員	収容定員	学生数
姫 路 高 等 学 校	600	1,800	1,210
牛 久 高 等 学 校	535	1,605	1,632
京 北 高 等 学 校	250	750	357
京 北 学 園 白 山 高 等 学 校	200	600	341
高 等 学 校 合 計	1,585	4,755	3,540
中学校名	入学定員	収容定員	学生数
京 北 中 学 校	120	360	108
幼稚園名	入学定員	収容定員	学生数
京 北 幼 稚 園	35	105	106

名称変更を実施した学科等の収容定員及び学生数には、旧名称学科等の収容定員数及び学生数を含む収容定員は、学年進行による

平成24年度 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

研究拠点を形成する研究

主体となる研究組織名	研究代表者	事業名(研究プロジェクト名)	期間	研究費(千円)
計算力学研究センター (大学院工学研究科) Center for Computational Mechanics Research	田村 善昭 (大学院工学研究科・総合情報学部教授)	大規模高精度流体・構造連成解析手法の開発と詳細実験による精度・妥当性	平成24年度 ～平成28年度	50,398
国際哲学研究センター (大学院文学研究科) International Research Center for Philosophy	村上 勝三 (大学院文学研究科・文学部教授)	国際哲学研究センターの形成 多元化した地球社会における新たな哲学の構築	平成23年度 ～平成27年度	44,000
「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ Transdisciplinary Initiative for Eco-Philosophy	山田 利明 (大学院文学研究科・文学部教授)	エコ・フィロソフィの確立と教育の研究	平成23年度 ～平成27年度	13,490
バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター Bio-Nano Electronics Research Centre	前川 透 (バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター 所長)	バイオ・ナノハイブリッド構造体を基礎とした革新的環境・バイオ・医療デバイスの開発	平成23年度 ～平成27年度	200,000
国際共生社会研究センター (大学院国際地域学学研究科) Center for Sustainable Development Studies	北脇 秀敏 (大学院国際地域学学研究科・国際地域学部教授)	アジア開発途上地域における内発的発展支援手法の開発	平成22年度 ～平成26年度	27,640
生体医工学研究センター (大学院工学研究科) Center for Biomedical Engineering Research	寺田 信幸 (大学院工学研究科・理工学部教授)	脳科学を基盤としたストレスの可視化によるヘルスサポートシステムの開発	平成22年度 ～平成26年度	30,000
経営力創成研究センター (大学院経営学研究科) Research Center for Creative Management	小椋 康宏 (大学院経営学研究科・経営学部教授)	日本発経営力の創成と「新・日本流」経営者・管理者の研究	平成21年度 ～平成25年度	10,100
植物機能研究センター (大学院生命科学研究科) Plant Regulation Research Center	下村 講一郎 (大学院生命科学研究科・生命科学部教授)	植物の健全育成モニタリングシステムの応用開発に関する研究 (トータル・ベジケア・システム構築プロジェクト)	平成20年度 ～平成24年度	30,000
21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター (大学院社会学研究科) 21st Century Human Interaction Research Center	安藤 清志 (大学院社会学研究科・社会学部教授)	犯罪・非行・災害における加害者・被害(災)者と社会	平成20年度 ～平成24年度	11,230
PPP研究センター (大学院経済学研究科) Public Private Partnership	根本 祐二 (大学院経済学研究科・経済学部教授)	地域再生分野PPP(Public/Private Partnership)の研究拠点形成 (最適REP基本設計理論研究プロジェクト)	平成20年度 ～平成24年度	11,100

就職状況

平成25年3月卒業生就職先

	農・林・漁・鉱業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	金融・保険業	不動産業	学術研究	飲食店・宿泊業	生活関連サービス業・娯楽業	医療・福祉	教育・学習支援業	複合サービス事業	サービス業	公務員	その他	計
文学部第1部	0	20	38	2	42	22	151	47	10	15	19	38	38	87	3	26	34	4	596
経済学部第1部	1	25	59	1	62	17	140	71	29	13	11	10	7	13	7	14	31	2	513
経営学部第1部	0	35	55	1	59	16	166	108	28	23	13	27	18	9	7	23	23	2	613
法学部第1部	3	19	30	2	25	18	96	44	23	14	6	12	11	14	3	5	47	4	376
社会学部第1部	0	26	51	2	62	15	116	57	21	19	10	16	85	18	6	31	24	5	564
理工学部	0	117	95	1	41	7	46	3	15	19	6	6	6	8	2	10	16	19	417
工学部	0	21	12	1	10	1	9	0	2	6	0	0	0	1	0	3	1	4	71
国際地域学部	0	15	26	1	6	16	84	27	27	7	18	60	14	13	5	10	8	1	338
生命科学部	4	3	79	2	7	5	58	6	4	7	12	7	13	14	4	3	9	3	240
ライフデザイン学部	0	23	27	0	20	3	88	15	16	12	5	20	105	42	4	7	39	5	431
総合情報学部	2	20	24	2	64	4	56	19	10	11	5	8	6	5	0	9	15	13	273
文学部第2部	0	0	6	0	2	1	8	2	1	4	4	2	6	6	0	3	1	2	48
経済学部第2部	0	3	7	0	10	2	14	7	2	3	5	7	3	3	2	5	1	1	75
経営学部第2部	0	3	9	0	6	0	13	6	3	3	2	3	5	0	0	2	3	0	58
法学部第2部	0	6	12	0	0	4	19	2	7	0	4	3	4	1	1	1	10	1	75
社会学部第2部	0	1	3	1	8	2	20	7	3	4	1	5	19	4	1	2	6	3	90

国際交流

大学間協定

No	種別	国	協定等相手先	包括	学生交換	No	種別	国	協定等相手先	包括	学生交換
1	大学間	アイルランド	ダブリンシティ大学			36	大学間	スイス共和国	ルツェルン大学		
2	大学間		リムリック大学			37	大学間		アジア工科大学院		-
3	大学間		ウイノナ州立大学			38	大学間	タイ王国	チェンマイ大学		-
4	大学間		オレゴン州立大学		1	39	大学間		中国文化大学		-
5	大学間		カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校			40	大学間	台湾	天主教輔仁大学		-
6	大学間		テネシー大学ジャクソンビル校			41	大学間		龍華科技大学		-
7	大学間	アメリカ合衆国	ポートランド州立大学		-	42	大学間		華中科技大学		-
8	大学間		ミズーリ大学セントルイス校			43	大学間	中華人民共和國	吉林大学		-
9	大学間		ミウール大学			44	大学間		上海对外貿易学院		-
10	大学間		モンタナ大学			45	大学間		大連外国語大学		-
11	大学間		リンゼイワイルソン大学			46	大学間		大連理工大学		-
12	大学間		インド工科大学デリー校		-	47	大学間		中国人民大学		-
13	大学間	インド	インド工科大学マドラス校		-	48	大学間		復旦大学		-
14	大学間		ケララ大学		-	49	大学間	ドイツ連邦共和国	マルブルク大学		-
15	大学間		マンガラン教育協会(マンガラン工科大学)		-	50	大学間	ニュージーランド	ユニテック工科大学		-
16	大学間	インドネシア共和国	スラバヤ工科大学		-	51	大学間		カラガ州立大 3		-
17	大学間	ウズベキスタン共和国	タシュケント国立東洋学大学		-	52	大学間	フィリピン共和国	サンホセリコルロス大学		-
18	大学間		カーディフ大学			53	大学間		セントジョセフ工科大学 3		-
19	大学間	英国	ブライントン大学		2	54	大学間		ファーザーサルコニノ・ユリオス大学 3		-
20	大学間		ヨークセント・ジョンズ大学			55	大学間		フィリピン大学デリマン校		-
21	大学間	オーストラリア	サンシャインコースト大学			56	大学間	フランス共和国	ストラスブール大学		-
22	大学間		シーキュー大学			57	大学間		ナント大学		-
23	大学間	オランダ王国	ロッテルダム大学			58	大学間	ベトナム社会主義共和国	ベトナム国家大学ホーチミン校		-
24	大学間		クワントラボリテック大学			59	大学間	マレーシア	マラヤ大学		-
25	大学間	カナダ	トンプソンリバーズ大学		-	60	大学間		マレーシア国際イスラム大学		-
26	大学間		マンロ(大)学			61	大学間	ルーマニア	ティミショアラ工科大学		-
27	大学間		円光大学校			62	コンソーシアム		ISEP(アイセック)		-
28	大学間		仁荷大学校			63	その他	アメリカ合衆国	NCPPP(米国PPP協会)		-
29	大学間		韓国外国語大学校			64	その他		LULL 日本政策投資銀行		-
30	大学間		成均館大学			65	その他	ハンガリー	ハンガリー科学アカデミー原子核研究所		-
31	大学間	大韓民国	建国大学校			66	都市	フィリピン共和国	プワアン市 3		-
32	大学間		金剛大学校		-	67	都市	大韓民国	平澤市		-
33	大学間		大邱大学校								
34	大学間		東国大学校								
35	大学間		韓南大学校								

1 現在は、学生の派遣超過により、学生交換を中止している。
 2 学生交換は、パイオニアの博士課程または学際融合の大学院生に限る。
 3 フィリピンの3大学、プワアン市、東洋大学との間の5者間協定。

東洋大学は、現在22カ国(注)161大学・1コンソーシアム・3機関・2都市と大学レベルの協定を結んでいる。
 (注)台湾を1カ国と数えた場合



東洋大学は平成 19 年度に 大学基準協会による大学評価（認証評価）を受け、「大学基準に適合している」と認定を受けました。この認定マークは、大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることのシンボルとなるものです。

平成 24 年度東洋大学レポート 平成 25 年 5 月 31 日 発行
学校法人東洋大学 〒112-8606 東京都文京区白山 5 - 28 - 20
URL <http://www.toyo.ac.jp/>